ISSN 0918－9106

徳島県立博物館年報

第3号（平成5年度）

Annual Report of the Tokushima Prefectural Museum

No.3 (for the fiscal year of 1993)

徳島県立博物館年報

第3号（平成5年度）

目　　次

Ⅰ　展覧事業

1．常設展 …… 3
2．企画展 …… 4
3．その他の展示会 …… 9
4．展示関係出版物 …… 10

Ⅱ　調査研究事業

1．分野別（個別）調査研究 …… 11
2．課題調査 …… 13
3．同和問題啓発企画展運営委員会 …… 15
4．研究成果の公表 …… 16

Ⅲ　資料収集保存事業

1．購入資料 …… 18
2．寄贈資料 …… 18
3．寄託資料 …… 19
4．資料の貸出 …… 19
5．館蔵資料数 …… 20
6．資料収集委員会 …… 20
7．文献資料の収集 …… 20
8．赤沢コレクションの整理 …… 21
9．阿部コレクションの受け入れ …… 21
10．資料データベース …… 21
11．資料の燻蒸 …… 22

Ⅳ　普及教育事業

1．普及行事 …… 23
2．講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等 …… 24
3．博物館実習生の受け入れ …… 25
4．博物館の広報活動 …… 25
5．普及教育関係出版物 …… 25
6．博物館友の会 …… 26

Ⅴ　管理運営

1．組織・職員 …… 27
2．予算 …… 28
3．博物館協議会 …… 28
4．四国地区博物館協議会・日本博物館協会
　　四国支部総会の開催 …… 28
5．東四国国体の開催にともなう取り組み …… 29
6．各種委員・非常勤講師等の受諾 …… 29
7．観覧者 …… 30
8．視察等博物館関係来訪者 …… 34

Ⅰ 展覧事業

博物館での展示は、常設展と企画展からなる。

常設展は、徳島の自然、歴史、文化、自然のしくみ等が概観でき、また、全国的・世界的なかかわりについても理解できるよう、いろいろなテーマを定めて展示している。部分的な展示替えや資料の入れ替えは随時行うが、基本的な展示の構成は当分の間変わらない。

企画展は、専用の企画展示室を使って年3回程度行うことにしている。各分野・分類群の館蔵コレクションの紹介、学芸員の研究成果に基づく地域自然誌や文化の紹介、全国的あるいは世界的な広がりの資料の展示など様ざまなテーマをおりまぜ、数年先までのスケジュールをたてて計画的に取り組んでいる。

その他、館外の展示として、平成5年度には「文化の森紹介展」を文化の森の他の4館と共同で相生町で行った。

1．常設展

(1) 常設展の構成

博物館の常設展示は、総合展示、部門展示およびラプラタ記念ホールの展示の3つから構成されている。

総合展示：「徳島の自然と歴史」を総合テーマとし、徳島の歴史と文化、現在の自然の姿が概観できるよう、次の7つの大テーマにそって展示が展開されている。

1．日本列島と四国のおいたち
2．狩人たちの足跡
3．ムラからクニへ
4．古代・中世の阿波
5．藩政のもとで
6．近代の徳島
7．徳島の自然とくらし

部門展示：総合展示とはちがった角度から、分野ごとの個別的・分類的な展示を行っている。

（人文）焼物のうつりかわり／阿波の美術工芸／徳島の歴史・民俗資料　など

（自然）いろいろな岩石／鉱物／いろいろな動物／生物の生活と自然のしくみ　など

ラプラタ記念ホールの展示：アルゼンチン共和国のラプラタ大学から寄贈された南アメリカ特有の哺乳動物化石を展示している。

(2) ラプラタ記念ホールの展示替え

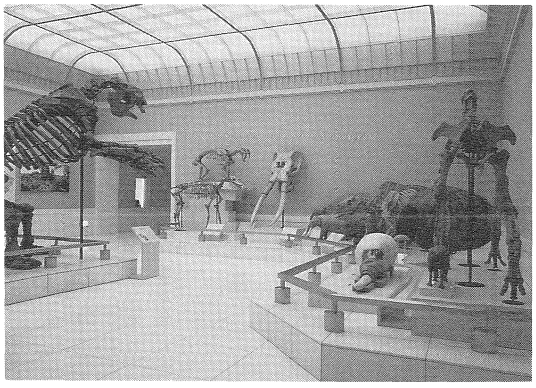
これまで、ラプラタ記念ホールでは、「徳島県とアルゼンチン共和国ラプラタ大学との相互贈与」によって寄贈された第1回及び第2回贈与資料の中から、メガテリウム全身骨格、パノクツス全身骨格及び甲羅などの資料を展示していたが、平成5年3月に到着したトクソドン全身骨格をはじめとする6点の第3回贈与資料を組み込むため、大幅な展示替えを行った。

展示替えの作業は12月20～22日に行った。この展示替えによって、全身骨格がずらりと並んだ壮観な展示に生まれ変わった。南アメリカの哺乳動物化石がこれだけまとまって見られるのはわが国では他になく、当館の誇りうるコレクションとして各方面から注目されるものと思われる。

なお、展示替えにともなって、メガテリウム腰骨、チタノサウルス大腿骨および椎骨、エクサエロトドン頭骨はスペースの関係で撤収した。ラプラタ記念ホールの新しい展示資料は次のとおり。

①メガテリウム全身骨格（レプリカ）　哺乳類（貧歯目）
②パノクツス全身骨格（レプリカ）　〃　（　〃　）
③　〃　甲羅　〃　（　〃　）
④　〃　原寸大復元模型
⑤スクレロカリプツス頭骨、甲羅、尾骨　哺乳類（貧歯目）
⑥トクソドン全身骨格（レプリカ）　〃　（南蹄目）
⑦マクラウケニア全身骨格（レプリカ）　〃　（滑距目）
⑧　〃　縮小復元模型
⑨スミロドン全身骨格（レプリカ）　哺乳類（食肉目）
⑩ヒッピディオン全身骨格（レプリカ）　〃　（奇蹄目）
⑪ステゴマストドン全身骨格（レプリカ）　〃　（長鼻目）
⑫　〃　縮小復元模型

（⑥～⑫が展示替えで新しく追加された資料）



新しいラプラタ記念ホールの展示

(3) 常設展の手直し

●検地帳の展示替え

「藩のしくみ」のコーナーで、これまで展示していた徳島県立文書館所蔵の那賀郡西納村御検地帳にかえて、板東郡徳命村御検地御帳之写（元和４年）を展示した。この資料は当館で新たに購入したもので、江戸時代初期（17世紀）における吉野川北岸下流域の田畠の様子がうかがえる。

●人形浄瑠璃衣裳の展示替え

人形浄瑠璃のコーナーで、従来展示していた花魁衣裳を八重垣姫衣裳に展示替えした。これは淡路の中野篤一郎座で使用されていたものである。開館準備期間中に購入したものであるが、常設展では初めて展示されたものである。

2．企画展

平成５年度は次の３回の企画展を行った。

(1) 第１回企画展「祈り・のろい・はらい」

古代以来、日本人の生活に根ざした信仰は、仏教（特に密教）や陰陽道、神祇信仰、自然崇拝などの要素が入り混じった呪術的なものであった。そして、今もなお、習俗のなかに生き続けている例が多い。近年の考古学や歴史学、民俗学は、そうした呪術信仰のありさまを多面的に明らかにしている。ことに中世についての成果の蓄積はめざましいものである。

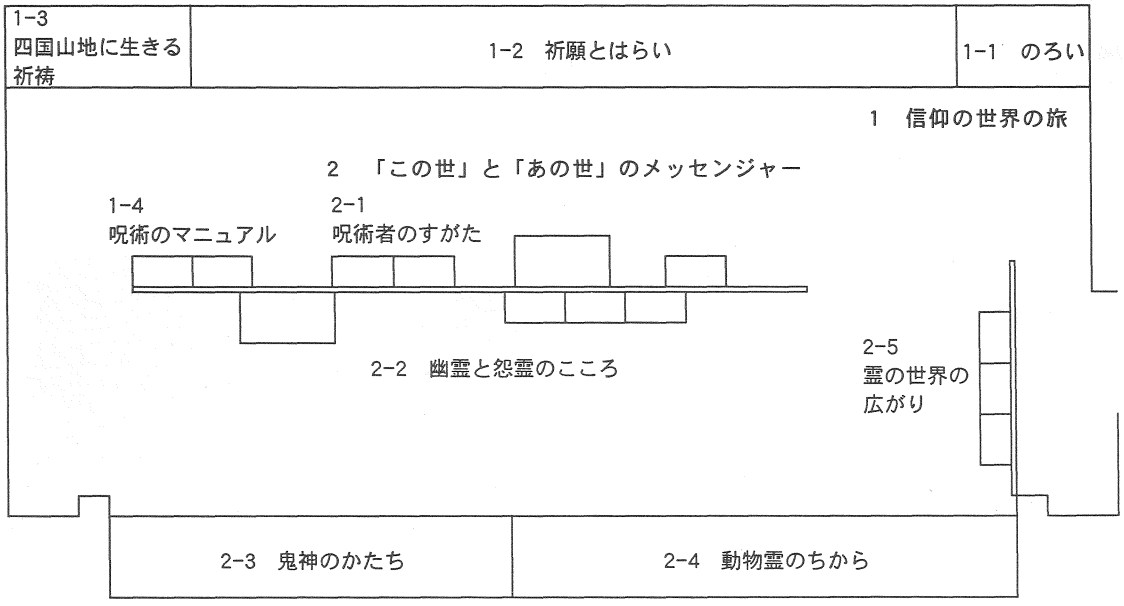
徳島県内でも、徳島市庄遺跡・中島田遺跡などの古代・中世の遺跡から呪具が出土しているほか、中世以来の憑き物(犬神)信仰の存在が知られている。また、徳島県に隣接している高知県物部村には、中世以来の系譜を引くとみられる独特の信仰「いざなぎ流」が伝承されている。

以上のことを踏まえ、この企画展では、呪術の道具類や呪術者・霊のイメージに関する徳島県内外の考古・歴史・民俗資料をもとに、呪術信仰の歴史を紹介した。あわせて記念講演会を開催した。

●期間　平成５年４月20日（火）～５月23日（日）

●会場　博物館企画展示室

●展示内容



「祈り・のろい・はらい」展会場

「祈り・のろい・はらい」展記念講演会

①信仰の世界の旅

「のろい」、「祈願とはらい」、「四国山脈に生きる祈禱―いざなぎ流―」、「呪術のマニュアル」の4テーマから構成。

主に「祈り・のろい・はらい」の道具をもとに、古代・中世の呪術信仰の実態、その系譜を引く可能性の高い信仰が習俗の中に見られるということを提示した。

②「この世」と「あの世」のメッセンジャー

「呪術者のすがた」、「幽霊と怨霊のこころ」、「鬼神のかたち」、「動物霊のちから」、「霊の世界の広がり」の5テーマから構成。

信仰とは、人間を超越した力を持つ神や仏などにすがることである。人間が生活し、その理解可能な世界を「この世」とすれば、神仏などの世界は人知を越えた「あの世」といえる。したがって、信仰とは、「この世」と「あの世」の対話なのである。

このような考えに基づき、古代・中世からの系譜を重視しつつ、「この世」と「あの世」を取り結ぶ呪術者やさまざまな霊についてのイメージを紹介した。

●主な展示資料

平城宮跡出土のろいの人形（複製）　奈良国立文化財研究所蔵
わら人形　祖谷平家村民俗資料館蔵
夫妻和合・離婚祭文　元興寺蔵
徳島市庄遺跡出土呪具　徳島県教育委員会蔵
草戸千軒町遺跡出土呪具　広島県立歴史博物館・広島県草戸千軒町遺跡調査研究所蔵
「阿州足利家」銘呪符　個人蔵
具注暦　称名寺蔵
まじなひ秘伝　国立国会図書館蔵
邪凶呪禁法則　西尾市立図書館蔵
いざなぎ流祈禱棚・御幣　当館蔵
眠龍筆幽女図　奈良県立美術館蔵
実盛様　国立民族学博物館蔵
人形富作酒呑童子　祖谷宝物館蔵
犬神信仰資料　個人蔵
化物絵巻　佐川町立図書館蔵
化物草紙　大阪市立美術館蔵

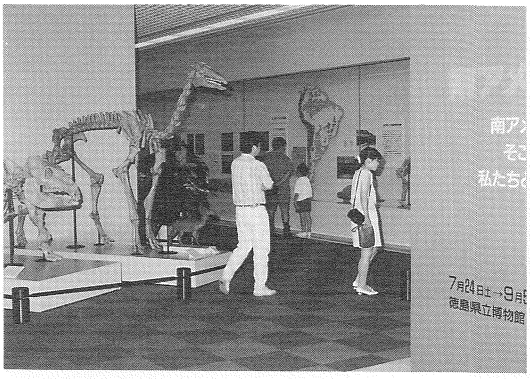
●観覧料　一般400円／高校・大学生200円／小・中学生100円

●観覧者数　3,361人

●**記念講演会**　4月25日（日）
講師：小松和彦氏（大阪大学文学部助教授）
演題：「魔よけ」をめぐるフォークロア
内容①高知県物部村における「いざなぎ流」との出会いから「のろい」への関心を深めていった講師自身の研究経歴
②民俗例の紹介による魔と魔よけの観念と方法についての概説
③現代社会と「のろい」の関係、日本人の心性が生み出してきた闇の世界の見直しの必要性
（「博物館ニュース」, No.11に講演要旨を掲載）
会場：21世紀館イベントホール
入場者：205人

⑵ 第2回企画展「南アメリカの自然」

南アメリカ大陸には、その独特な大陸の生いたちから、他の大陸には見られない、生物進化上興味ある独特の生物がすんでいた。本企画展では、徳島県とラプラタ大学との第3回相互贈与で寄贈された南アメリカ特有の哺乳動物化石の紹介を兼ねるとともに、他の南アメリカ産化石・現生動植物・南アメリカ起源の食用作物などをまじえて、南アメリカ大陸のおいたちと生物相の形成、南アメリカの自然と動植物、南アメリカ大陸が人類に与えた恩恵などについて紹介することとした。

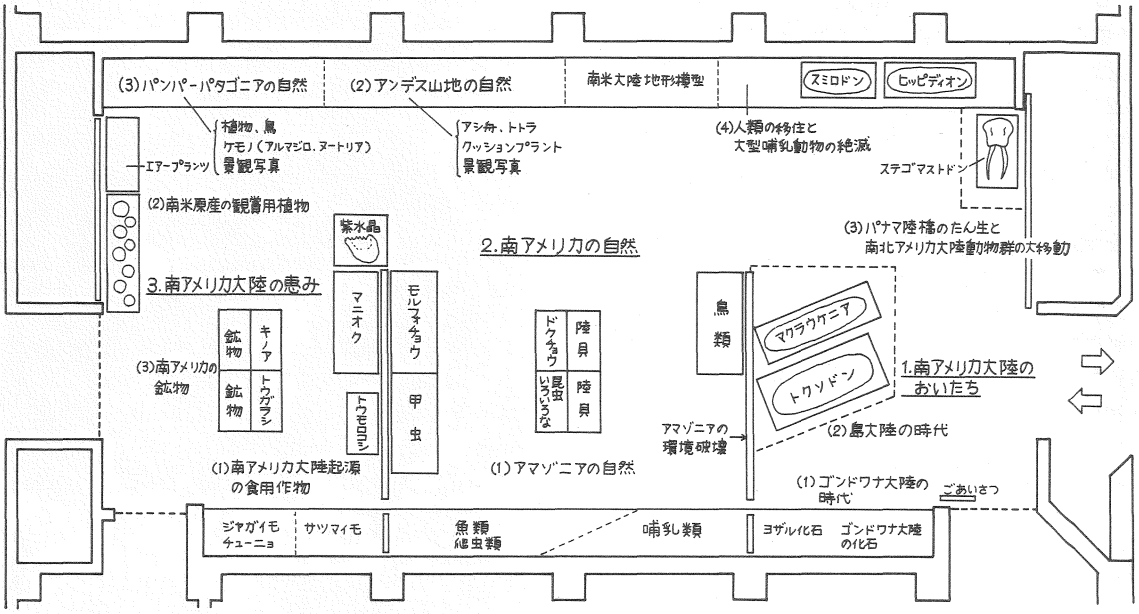


「南アメリカの自然」展会場入口付近

あわせて、記念講演会を開催した。

●**期間**　平成5年7月24日（土）～9月5日（日）
●**会場**　博物館企画展示室
●**主な展示内容**
①南アメリカ大陸のおいたち
・ゴンドワナ大陸の時代――ゴンドワナ大陸の化石、日本の中のゴンドワナ
・島大陸の時代――南アメリカ特有の哺乳動物
・パナマ陸橋の誕生と生物群の大移動――北アメリカから侵入した哺乳動物、人類の移住
②南アメリカの自然
・アマゾニアの自然――哺乳類、鳥類、爬虫類、魚類、昆虫、アマゾンの森林破壊
・アンデス山脈の自然――景観、動植物
・パンパ・パタゴニアの自然――景観、哺乳類、鳥類、植物
③南アメリカ大陸の恵み
・南アメリカ起源の食用作物――トウモロコシ、サツマイモ、ジャガイモ、マニオクなど

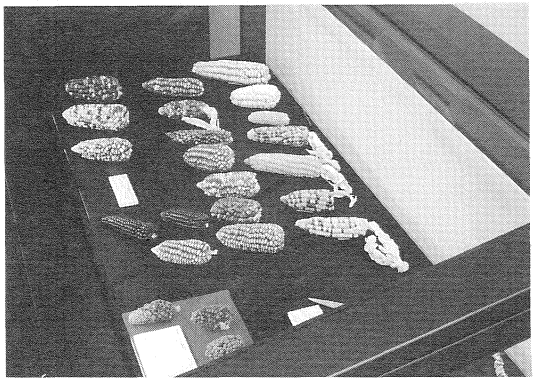
アマゾンにすむ鳥類の展示



・南アメリカ原産の観賞植物
・南アメリカの鉱物資源――宝石とその原石

●**主な資料借用先**

国立民族学博物館：南アメリカの食用作物、農耕・狩猟用具
アマゾン資料館：アマゾンの動物剝製
大阪市立自然史博物館：アンデスのクッションプラント
京都大学霊長類研究所：コロンビアの中新世ヨザル化石
日本モンキーセンター：ヨザル剝製
農水省農業研究センター：サツマイモ（南米の栽培品種）
北海道農業試験場：ジャガイモ（南米の栽培品種）



いろいろな色や形をしたトウモロコシの展示

●**観覧料**　一般200円／高校・大学生100円／小・中学生50円

●**期間中の観覧者数**　12,206人

●**記念講演会**　8月1日（日）

講師・演題
①冨田幸光氏（国立科学博物館主任研究官）
「南アメリカの哺乳動物―その進化の歴史」
②小野幹雄氏（東京都立大学理学部教授）
「アンデスとパタゴニア―南アメリカの植物地理」
会場：21世紀館イベントホール
入場者：96名

(3) 第3回企画展（東四国国体スポーツ芸術協賛）「徳島の生んだ先覚者―鳥居龍蔵の見たアジア」

最近、徳島の生んだ偉大な人類学者鳥居龍蔵博士の業績がたいへん注目されている。東京大学総合研究資料館の手によって、鳥居龍蔵の撮影したガラス乾板が整理し直されたことが、この大きなきっかけとなった。また、1993（平成5）年が博士の没後40年であり、これを記念して博士の調査の中心であった東アジアにスポットを当てて展示を行った。

鳥居龍蔵の生いたちを概観し、長野・沖縄など国内の調査から導入した。展示の中心となる東アジアは、東京大学総合研究資料館所蔵の考古資料と国立民族学博物館所蔵の民族資料をお借りして、台湾、南西中国、千島列島、サハリン・アムール地方、中国東北部・モンゴル、朝鮮半島と地域ごとに鳥居龍蔵の調査の跡を追いかけた。ガラス乾板から再生した写真資料もふんだんに取り入れて展示を行った。これらの中には韓国国立中央博物館所蔵の写真資料も含まれている。

企画展に合わせて、記念講演会と企画展解説を行った。

●**期間**　平成5年10月12日（火）～11月21日（日）

●**会場**　博物館企画展示室および21世紀館多目的活動室

●**主な展示資料**

国内の調査

『先史及び原史時代の上伊那』原稿

島田髷を結う埴輪

城山貝塚出土品

アジアの調査

〈台湾〉

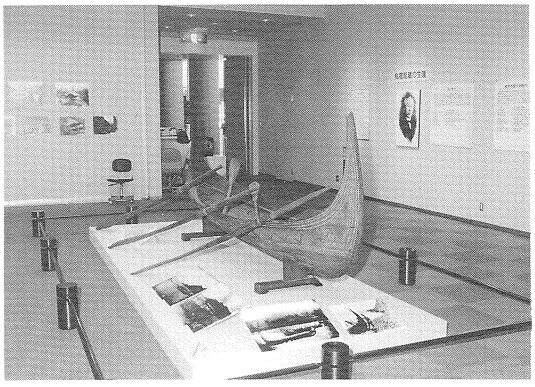
ヤミ族の民族資料（タタラ、鎧、蓑、臼、首飾り）

〈西南中国〉

苗族、イ族の民族資料（笙、帽子、草鞋）

〈千島列島〉

千島アイヌの民族資料（カンジキ、帯、発火具）



ヤミ族の舟タタラの展示

千島列島の発掘品（内耳土器、石斧、骨角器）

〈サハリン・アムール地方〉

サハリンアイヌ、ニブヒ族、オロッコ族などの民族資料（ゆりかご、白樺製容器、木鉢、鮭皮製の袋）

サハリンの考古資料（骨角器、石斧、土器片）

ヤンコフスキー貝塚の土器、石斧、貝類

〈中国東北部・モンゴル〉

モンゴル族の民族資料（靴、煙草入れ、水入れ、ラッパ）

細石刃・細石刃核、石鏃、磨製石剣、博山鑪、漢代専室墓の副葬品（内行花文鏡、四葉金具、貨泉、耳付き皿、魚を入れたる盆）、遼代の緑釉瓦

〈朝鮮半島〉

藁人形

櫛目文土器、磨製石斧、石包丁

●**観覧料**　一般400円／高校・大学生200円／小・中学生100円

●**期間中の観覧者数**　3,608人

●**企画展解説**　10月17日（日）

講師：天羽利夫（当館副館長）

演題：鳥居龍蔵の足跡

会場：講座室

参加者：38人

●**記念講演会**　11月３日（日）

講師：宋　文薫氏（国立台湾大学文学院教授）

演題：鳥居龍蔵と台湾

会場：21世紀館イベントホール

参加者：149人

３．その他の展示会

(1) 文化の森紹介展

この紹介展は、文化の森から離れた地域の人に、文化の森の機能や姿について理解と関心を深めていただくことを目的としている。一昨年の池田町、昨年の日和佐町に続いて、紹介展は３年計画での開催である。平成５年度は、文化の森の５館と相生町および同町教育委員会の主催で、相生町で開催した。

博物館では、展示・調査研究・収集保存・教育普及にわけ、博物館の活動を紹介した。

この紹介展の準備のため、各館と文化の森室の担当者による紹介展担当者会議（博物館担当者：小川・大橋）を設け、開催地の検討、展示内容や行事の調整を行った。

●**期間**　平成６年３月11日（金）～13日（日）

●**会場**　相生森林美術館

●**観覧料**　無料

●**博物館のコーナーの主な内容**

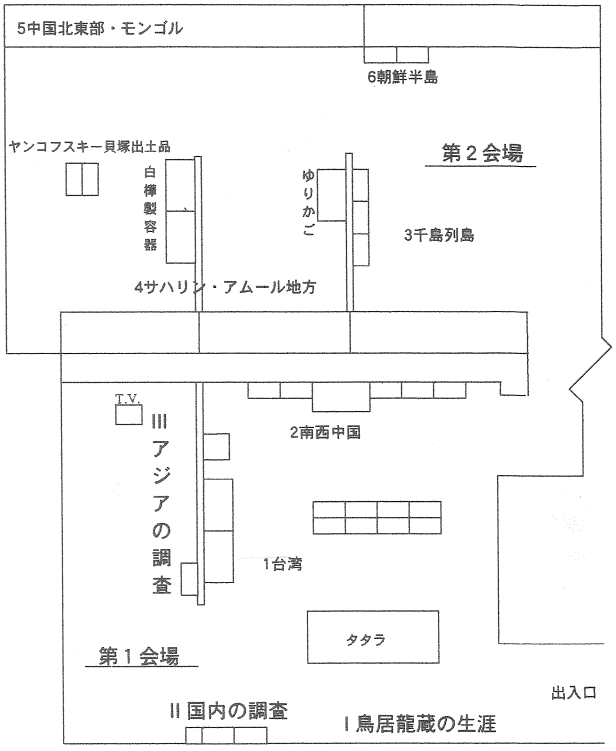
①展示

常設展のようすを写真パネルで紹介した。また、５年度開催の企画展のうち次の２つを選び、展示資料や写真パネルを用いてその内容を紹介した。

・「南アメリカの自然」では南アメリカの鉱物や昆虫、トウモロコシ、ピラルクの剝製を展示した。

・「祈り・のろい・はらい」では、いざなぎ流という民俗宗教の写真、呪術書、鬼神面を展示した。

「文化の森紹介展」会場

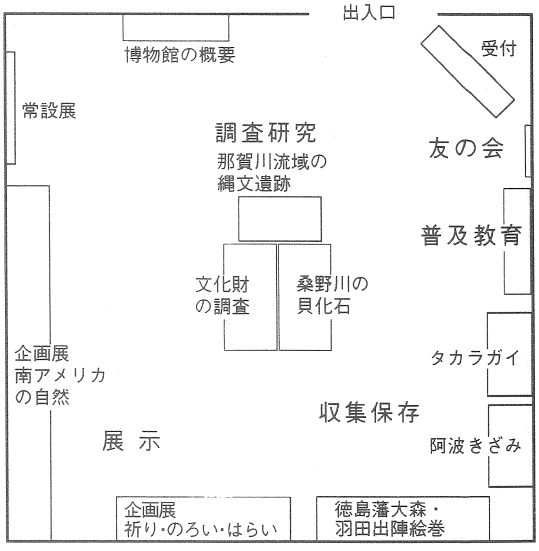


②収集保存

博物館の収蔵資料のうち、徳島藩大森・羽田出陣絵巻、阿波刻みたばこ版木、タカラガイなどの貝の標本を展示した。

③調査研究

博物館の調査研究活動について次の３テーマで紹



介した。

・「那賀川流域の縄文遺跡」では、平成4・5年度課題調査での成果をもとに、那賀川流域の縄文遺跡の出土品を展示した。身近な地域のものであり、講座とあわせて、来館者の興味をひいていた。また、出土品についての情報もいくつか寄せられた。

・「文化財の調査」では、赤外線カメラを使って文字が識別できなくなった棟札の字を明瞭にみせる実演を行った。

・「桑野川の貝化石」では、桑野川河口の沖積層から得られた貝化石を分類・整理し記録する過程を、実物や道具を用いて説明した。

④教育普及

博物館で行われた普及行事について、テキストや写真パネルを通して紹介した。また、平成6年度開催予定の普及行事の一覧も展示した。

●期間中の入場者数　682人

●講座

期間中、各館が分担して8つの講座や展示解説を開催した。博物館では次の2講座を行った。

①「ナカガワノギクと日本の菊」
日時：3月12日（土）13:00～14:00
講師：小川　誠（植物担当学芸員）
参加者：17名

②「那賀川流域の縄文遺跡」
日時：3月13日（日）13:00～14:00
講師：高島芳弘（考古担当学芸員）
参加者：21名

⑵ 埋蔵文化財資料展「掘ったでよ阿波」

埋蔵文化財資料展「掘ったでよ阿波」は、毎年県教育委員会文化課の主催事業として郷土文化会館で行われてきたが、5年度年は文化課と博物館との共催で博物館で開催された。

展示は「弥生時代の徳島」と題したテーマ展示と、平成5年度の文化課の代表的な発掘資料を紹介する速報展の2コーナーにわけて行った。テーマ展示では庄遺跡、黒谷川郡頭遺跡や稲持遺跡など、徳島県の代表的な弥生遺跡からの出土品が目をひいた。

また、期間中の2月19日（土）には、資料展を記念してシンポジウムが行われた。

●期間　平成6年2月1日（火）～27日（日）
●会場　博物館企画展示室
●観覧料　無料
●期間中の入場者数　4,090人

4．展示関係出版物

■企画展解説書

●「祈り・のろい・はらい」展図録
1993年4月20日発行、B5判、87ページ（8カラー図版）、700部＋300部（友の会増刷分）

●「南アメリカの自然」展解説書
1993年7月24日発行、B5判、iii＋45ページ（22カラーページ）、700部＋300部

●「徳島の生んだ先覚者　鳥居龍蔵の見たアジア」展解説書
1993年10月12日発行、A4判、120ページ、700部＋300部
なお、既発行分が品切れとなったため、年度末に300部＋200部（友の会分）の増刷を行った。

Ⅱ 調査研究事業

調査研究は、博物館における諸活動の根底をなすものである。それは、質の高い調査研究に裏付けられて、最新の情報を盛り込んだ展示、質の高いコレクション、内容豊かな普及行事が可能となるからである。

当館の調査研究事業には、各学芸員がそれぞれの分野や専門とするテーマに基づいて日常的に取り組んでいる個別調査研究、特定のテーマを定めて年度単位で集中的に取り組む課題調査、翌々年以降に予定されている企画展のための資料調査などがある。現在、館長以外に14名の学芸スタッフがこの業務に携わっている。また、普及係の２名（教員）もそれぞれの専門を生かした研究を行っている。

１．分野別（個別）調査研究

大原賢二（動物・昆虫）

①徳島県のカミキリムシの調査

平成６年度の出版にむけて、採集や過去のデータの集積、成虫の写真撮影などを行なった。

②四国の蝶類の生息地および種の現状調査

昨年度に引き続き、四国各県の同好会の方々の協力を得て、四国の蝶類の現状を把握するための調査を行った。

③日本産ハナアブ科の分類学的研究

八重山の調査において、甲虫や蝶類などの収集と同時にハナアブ科の調査も行い、日本未記録種などを収集した。

佐藤陽一（動物・脊椎動物）

①ニシン亜目魚類の分岐学的・表形学的類縁関係および進化分類

骨格系に基づき、ニシン亜目魚類52種の分岐学的および表形学的類縁関係を推定した。さらに、これらの類縁関係に対しアダムス合意法を適用することにより、進化分類を操作的に実現するための方法論を検討した。本研究により理学博士（東京都立大学）の学位を取得した。その成果の一部は四国魚類研究会および日本魚類学会年会で発表した。

田辺　力（動物・無脊椎動物）

①県産無脊椎動物相の調査

海南町、鳴門市にて海岸無脊椎動物相の調査を、徳島市にて土壌無脊椎動物の調査を行った。

②四国産無脊椎動物相の調査

香川県仁尾町にて海岸無脊椎動物相の調査を、香川県三野町にて土壌無脊椎動物相の調査を行った。

③日本産ヤスデ類の分類学的研究

日本産ヤマンバヤスデ属の分類学的再検討を行い、報告した。ホラケヤスデ属の分類学的再検討を行い、報告した（Hampden-Sydney 大学　W.Shear 氏と共同）。*Nipponothrix* 属を設立し、報告した（Hampden-Sydney 大学　W.Shear 氏らと共同）。

小川　誠（植物）

①博物館の収集保存活動におけるパソコンの利用

パソコンと市販データベースソフトを用いて収集保存活動に有効利用する方法を昨年に引き続き検討し、以下のことが明らかになった。

ａ．博物館資料データベースのデータを使って、桐（ver. 4）上で指定した複数の分類群の分布図を自動作成することができ、作成した分布図は DXF というグラフィックフォーマットを経由してグラフィックソフトに取り込むことができる。

ｂ．資料データベースを使った標本目録作成では、文字だけでなく字体や分布図、目次、索引を印刷レイアウトソフト用にデータを出力することができ、編集作業を効率的に進めることができる。

②由岐町の植物調査

平成５年度阿波学会の調査の一環として由岐町の植物相の調査を行った（木村晴夫氏、木下　覚氏らと共同）。

鎌田磨人（植物）

①平成５年度阿波学会の調査の一環として、由岐町の植物群落調査を行った（徳島大学石井愃義氏、徳島県情報処理センター森本康滋氏、池田高校西浦宏明氏らと共同）。

②池田町黒沢湿原の維持、管理を行う上での基礎資料収集の一環として、植物群落の分布および植物相把握のための調査を行った（黒沢湿原植物保護調査研究会、代表高知大学理学部中山三男教授らと共同）。

③植物群落などの分布構造を把握し、持続可能な土地利用などを考えるにあたって必要な、景観生態学的な方法論に関する研究を行った（広島大学中越信和氏と共同）。

両角芳郎（地学）

①上部白亜系の化石層序に関する研究

阿讃山地東部の和泉層群から産出するアンモナイト、とくにディディモセラス類の分類学的検討を行った。また紀伊半島の鳥屋城層の現地調査及び産出するアンモナイトの調査を行った。

②勝浦盆地下部白亜系産化石に関する研究

羽ノ浦層から産出するアンモナイト類の分類学的検討を行った。

中尾賢一（地学）

①鳴門海峡産ナウマンゾウ化石についての研究

当館所蔵のナウマンゾウ化石のうち、臼歯化石について計測・記載を行った（当館亀井館長と共同）。

②徳島県の沖積層産貝化石についての研究

県内の3地点の沖積層から産出した貝化石について、種構成・産状・群集構成・群集の時間的な変化、随伴する微化石を調べた。一部の資料については、放射性炭素による年代測定を行った。

③由岐町の地質調査

平成5年度阿波学会の調査の一環として、由岐町の地質について調査を行った(徳島大学石田啓介氏、鳴門第一中学校橋本寿夫氏、藍住南小学校森永　宏氏、徳島文理大学寺戸恒夫氏と共同)。

④第二瀬戸内累層群の一部である口之津層群から産出する軟体動物化石について、観察・採集を行った。

天羽利夫（考古）

①鳥居龍蔵の台湾調査関係資料の調査

鳥居龍蔵が1896年から1900年の間、4回にわたって行った台湾の考古・民族調査に関する文献の収集や、円山貝塚など鳥居龍蔵の足跡をたどる現地調査を行った。

②古墳時代の四国における埋葬頭位の研究

古墳時代前期の四国においては、近畿地方北枕埋葬と異なって、東西埋葬の風習が見られる。これらに関する近年の成果を収集調査した。

高島芳弘（考古）

①弥生時代の農耕、狩猟・漁労関係資料の調査

平成6年度企画展「描かれた弥生人のくらし」の準備のため、福岡、岡山、愛知、四国内などの関連資料を調査した。

魚島純一（保存科学・考古）

①出土遺物のX線透過撮影による構造調査

県内から出土した金属製遺物を中心にX線透過撮影による構造調査を行い、製作技法の研究を行った。

②出土遺物の蛍光X線分析による材質調査

県内から出土した金属製遺物および赤色顔料関係遺物の蛍光X線分析による材質調査を行った。

③外部依頼による資料の調査

高知県立歴史民俗資料館、岡山県古代吉備文化財センター、高松市歴史資料館などの依頼を受けて、出土文化財等のX線透過撮影による構造調査、蛍光X線分析による材質調査などを行った。

山川浩實（歴史）

①日中戦争、太平洋戦争関係資料の調査

平成7年度開催の文化の森開園5周年記念企画展「戦争から豊かな未来へ」の準備の一環として、関係資料の所在調査を行うと共に、防衛庁戦史部、国立国会図書館憲政資料室、国立公文書館などで資料内容の検討を行った。

②四国防衛軍第6特攻戦隊第22突撃隊基地についての調査研究

太平洋戦争の末期に、阿南市橘湾の小勝島に作られた四国防衛軍第6特攻戦隊第22突撃隊基地について聞き取り調査や資料収集を行うと共に、成果を「博物館ニュース」No.13で発表した。

③徳島県下の空襲についての調査研究

太平洋戦争期の本県の空襲について、アメリカ軍の資料と徳島県側の資料を対比し、その実態について調査した。

長谷川賢二（歴史）

①修験道を中心とする中世の宗教組織に関する研究

中世の熊野先達統括組織の構造と動態、在地における山伏の横断的結合の展開と意義について検討し、山岳修験学会大会で報告した。また、県内の修験道関係史料を調査した。

②中・近世石造物の調査

脇町教育委員会の依頼により、脇町の板碑を含む石造物の調査を行った。また、石川重平氏から寄贈された中世石造物の拓本の整理に伴い、現物の所在・現状に関する情報の収集・整理を行った。

③部落解放運動関係資料の調査

平成6年度に開催する企画展の準備の一環として、県外所在の四国地方の水平社運動に関する史料の調査を行った。また、戦後の徳島県部落解放運動史についての事実関係を調査した。

福田珠己（民俗）

①故郷のイメージに関する研究

文学作品に描かれた故郷の分析を通して、現代におけるふるさと観について考察した。

②畑作農具の調査

平成6年度企画展「祖谷―その自然とくらし」の準備の一環として、東祖谷山村において畑作農具を調査した。

③民俗と博物館についての研究
　アメリカ合衆国における「生活史復元運動」を中心に、文献調査を行った。

大橋俊雄（美術工芸）

①蒔絵師飯塚桃葉の研究
　桃葉の在銘作品と、文献資料の調査収集を行った。

②森崎家資料の調査
　館蔵の森崎家資料（狩野派の粉本類）の整理と表装を行い、その内容について研究した。

③県下の絵画作品の調査
　藩の御用絵師を中心に、絵画の所在調査を行った。

徳山　豊（普及）

①平成５年度阿波学会の調査の一環として、由岐町の水生昆虫の調査を行った。

②環境教育の一環としての水辺教室のあり方と生物学的水質判定法の意義と問題点ついて研究した。

③鳴門市板東谷川水系の水生昆虫相を調査した。

２．課題調査

平成５年度は、次の３つの課題調査を行った。

(1) 黒潮の道―八重山の自然と民俗１

徳島県の生物相や民俗文化は、様々な複合的な要因を基盤として成立しており、山地部では北方系の要素が、海岸や平地部では南方系の要素が強く影響している。生物相の成立には、氷河期における北方系の生物の移動とその後の隔離を考える必要があり、一部は平成３～４年度の課題調査「祖谷の自然と民俗」においても山地部の生物相の成因解明のための足がかりをつくることができた。しかし、これらの調査が進む中で、山地といえども民俗文化的なもの、つまり焼畑の方法やそこで栽培されていたシコクビエなどの作物には、南方系の要因が色濃く存在していることもわかってきた。

一方、北方系の生物が多く存在するのは徳島県では標高1000m以上であり、その面積からも、徳島県の生物相は南方系の要素が圧倒的に強いと考えられるし、同時にそれは民俗文化にも該当し、南方系の民俗文化の影響が山地部に及び、それが現在まで残っていると思われる。

生物相や民俗文化における、徳島県の南方系の要素の流入経由は様々なものが考えられるが、中でも黒潮が生物の移動だけでなく、人やそれに伴う文化の移動に重要な貢献をしてきたことは間違いないと思われる。作物やその栽培技術などの民俗においても、徳島では芋ではなくズイキだけを食べるサトイモ（ハスイモ）が栽培されているが、これも黒潮の流れに沿った人の移動に伴って北上したきたと考えらているものである。

徳島県の生物や民俗文化の成立基盤を探ることは博物館の重要な役割であるが、それを達成するには、県内での詳細な調査はもちろん、その源流部の調査を欠かすことはできない。したがって、本課題調査では、黒潮の流れに沿って、南西諸島から九州南端、四国南端へと、生物、民俗文化およびそれを跡付ける歴史・考古資料などを調査し、徳島の生物相および民俗文化の成立基盤を探る足がかりをつくりたいと考えている。

平成５年度は、第１回目として八重山をとりあげ、石垣島の南嶋民俗資料館、竹富島の喜宝院蒐集館との共同調査も行った。さらに沖縄県立博物館などとの共同研究や鹿児島大学、琉球大学の農学部との共同調査も予定している。また、いずれは、国際交流事業として、かつて大琉球とも呼ばれ歴史的にも非常に関わりの深かった台湾の博物館や研究者との共同研究も行いたいと考えている。そして、それらの成果を総合して、開館10周年記念企画展として、台湾や沖縄、鹿児島、宮崎、高知、和歌山などの各県立博物館と合同の大きな展示会を開催したい。

●課題調査の全体計画

①沖縄県八重山諸島の自然と民俗の調査（平成５～６年度）

②沖縄本島の自然と民俗の調査（特に南部と、北部の山原地方を中心に）（平成７年度）

③奄美大島、徳之島周辺の自然と民俗の調査（平成８年度）

④鹿児島県、宮崎県、高知県の太平洋岸の自然と民俗の調査（平成９年度）

⑤黒潮街道（仮題）企画展（平成12年度？）

●平成５年度の調査

「八重山の自然と民俗」と題して以下のような調査を行った。

①調査メンバー

博物館学芸員：亀井節夫（館長・地学）、大原賢二（昆虫）、田辺　力（無脊椎動物）、鎌田磨人（植物）、福田珠己（民俗）

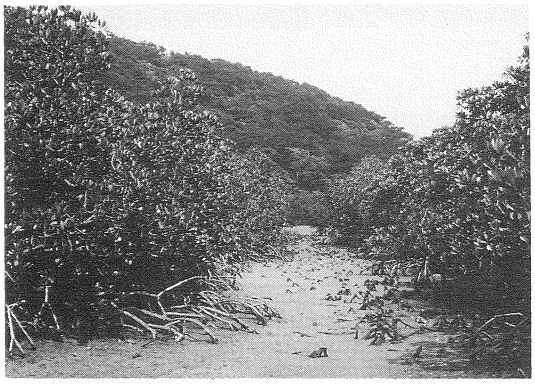
館外調査者：櫛下町鉦敏（鹿児島大学農学部助教授・昆虫）

現地協力者：上勢頭芳徳（竹富島、喜宝院蒐集館）
　崎原　毅（石垣島、南嶋民俗資料館）

②調査日程

第１回：平成５年６月19日～30日、石垣島・西表島・竹富島調査（大原・櫛下町）

第２回：平成５年７月１日～11日、石垣島・竹富島・小浜島・黒島・那覇市調査（福田）



西表島、仲間川のマングローブ（ヤエヤマヒルギ）群落（1994年２月23日）

第３回：平成５年11月10日～13日、沖縄本島調査（大原）
第４回：平成５年11月10日～21日、石垣島・西表島調査（田辺）
第５回：平成６年２月21日～３月３日、石垣島・西表島・竹富島調査（亀井・大原・鎌田）

③調査内容

・八重山諸島の石垣島・西表島を中心に、昆虫類、陸産及び海産貝類、ヤスデ類、マングローブ林内の甲殻類などの収集
・地表性動物、土壌性小動物の調査収集
・各島の岩石や化石の収集
・徳島県南部まで見られる植物の分布状態、土地利用の調査
・各島の農具・作物の調査や、伝承民話等の聞き取り調査
・石垣島・竹富島の民俗資料館所蔵の資料の調査
・藍染ほか各種の草木染の調査

⑵ 四国南東部の新第三紀貝類化石の産状と群集構成

四国の大半は古第三紀以前に形成された付加体堆積物から構成されているが、南東部などの一部には、太平洋に面した日本列島の各地と同様、新第三紀鮮新世（約300万年くらい前）の地層が分布している。

この地層（唐ノ浜層群）からは貝類化石を豊富に産することが以前からよく知られていて、おもに層序区分や時代論・広域対比の観点からいくつかの研究が行われてきた。しかし、化石を含む堆積物の層相と貝化石の産状との関係や、化石の群集構成などについての研究調査はほとんど行われていなかったため、これらの点に注意して観察を行うとともに、資料の収集も行った。

●調査者：中尾賢一（当館学芸員・地学）

●調査概要

日程：平成６年２月11日～13日

唐ノ浜層群の中でも、深海底に堆積した地層といわれている登層の分布域を中心に調査・資料採集を行った。登層の分布域はかなり狭く、露頭も限られていることから、最も露出の良い模式地周辺に限って調査・採集を行った。

●成果

登層の下部と上部では、産出する種の組み合わせと産状に多少の違いがあることがわかった。すなわち下部では、相対的に浅い海域に生息していたとみられる貝の化石（モミジツキヒ、ダイニチフミガイ、スズキサルボウなど）が層状に密集する層準が認められる。このような層準に入っている大型の貝化石は、破損していることが多い。二枚貝であれば、すべて両殻は離れて層理面に平行に並んでいる。これらの化石は浅い海域から流れ込んだものと考えられる。いっぽう上部では、貝化石は散在状に産する。生息時の姿勢を保ったままの個体も確認できた。このような産状の違いは、この地層の堆積環境の変遷を考える上で非常に重要である。本調査で、登層から産するよく知られた貝化石のうち、産出が稀なもの以外はほぼひととおり採集することができた。

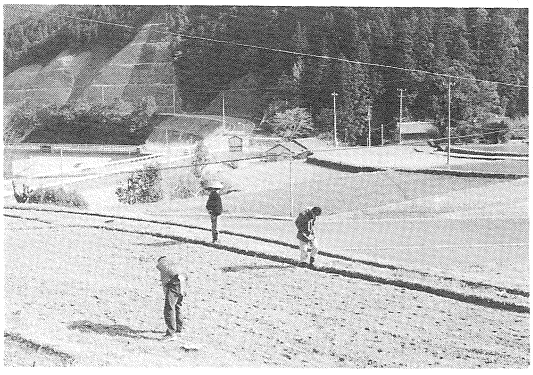
⑶ 海部川流域の縄文遺跡の調査

平成３年度、４年度と那賀川流域の縄文遺跡の分布調査を行い、那賀川の上・中流域についてはひととおり歩き終った。なかには、相生町鮎川をはじめとする有望な遺跡の発見もあり、大きな成果をあげた。

５年度は、サヌカイトの運ばれたルートが那賀川流域から南の方にどのようにのびていたのかを確認するために、海部川流域の分布調査を行った。

●調査メンバー

博物館学芸員：亀井節夫（館長・地学）、天羽利夫・



石鏃が出土した西桑原での調査のようす

高島芳弘・魚島純一（考古）、中尾賢一（地学）
館外協力者：寺戸恒夫（徳島文理大学）、阿部里司（阿南市教育委員会）、柏野寿一（徳島市）

●調査概要

平成6年2月26日～28日（天羽・高島・魚島・寺戸・阿部・柏野）

海部川本流の上・中流域と、支流の小川谷川、相川で分布調査を行った。海部川流域は今までほとんど調査に入ったことがなかったので、台地ごとにていねいに見て歩いた。

平成6年3月26日～28日（亀井・天羽・高島・魚島・寺戸・阿部・柏野）

海部川流域では、小川谷川の流域と桑原の補足調査を行った。また、海部川のさらに南の宍喰川流域の分布調査を行った。この調査では宍喰町教育委員会の方々に案内などでたいへんお世話になった。

●成果と課題

海部川流域では、西桑原においてサヌカイト製の石鏃とチャート製の石鏃のほか数点のサヌカイト剝片を採集した。西桑原は、大正5年に道路工事で石斧5点が採集された場所であり、興味が持たれる。ほかの地点ではサヌカイトの剝片ばかりでなく良質なチャートの剝片も採集できなかった。

なお、下流域の吉野において、すでに圃場整備が終った田に弥生土器、須恵器、サヌカイトの剝片などが散乱しているのを発見した。ここでは石斧も採集した。

宍喰川流域では数点でチャート剝片を採集しただけで、サヌカイトの剝片は採集できなかった。

今後は、サヌカイトの産地である香川県の国分台・金山などから那賀川流域にサヌカイトを運んだルートとして、中間地帯である勝浦川流域などを詳しく調べる必要があろう。また、相生町の鮎川などの有望な遺跡の発掘を行って、それらの時期を明らかにしてゆかなければならない。

3．同和問題啓発企画展運営委員会

この委員会は、平成6年度に開催予定の同和問題啓発企画展のための資料所在調査、資料収集、展示計画等について検討することを目的に、平成4年度から設置されているものである。委員には、右表のとおり、学識経験者等13名を委嘱している。なお、平成5年度の定期人事異動にともない、山田健作氏（県教委生涯学習課成人教育班長から北島北小学校長に転出）に代って新たに多田　実氏（県教委生涯学習課社会教育主事）に委員を委嘱した。

5年度は、2回の委員会を開催した。企画展開催の直前の年度に当たることから、4年度の準備状況を踏まえての実務的な内容に関する討議の場という位置づけを与えた。委員会には、館内から館長、副館長、各課長、人文課学芸員、総務課普及係職員が出席し、文化の森室からも職員1名の出席があった。

委員会における議事の概要は、次のとおり。なお、回数は前年度からの通し回数で表示している。

●第4回：7月13日に開催。委員12名出席。①展示の具体的な内容（資料や展示方法）の最終確定、②関連行事のあり方について検討した。

まず、①について討議された。第3回委員会で、生活文化に重点を置いた構成を考えていくという方向性が了承されていたので、それを踏まえて作成された事務局案をもとに討議した。

展示は「『部落』とは何か」、「差別のもとでのくらし」、「芸能・祭と生きる力」、「人間に光あれ」の4部構成である。第1テーマでは、近世・近代の被差別部落史を概観し、展示の導入的な役割をもたせる。第2テーマで被差別部落の生活、第3テーマで人形つかいや獅子舞などの芸能をそれぞれ扱い、あわせて展示の中核に位置づけるものである。第4テーマは、差別の現状や差別解消への取り組みを紹介し、部落解放への展望を得ることを目的としている。以上のような各テーマの位置づけに基づいて、事務局で作成した展示資料リストや展示室のレイアウト計画図を提出・説明し、検討に入った。

●同和問題啓発企画展運営委員会委員

氏　名	所属・役職
高橋　啓	鳴門教育大学教授（委員長）
浅香　寿穂	県立富岡西高等学校教頭（副委員長）
赤川喜代子	徳島県同和対策推進会事務局長
吉原　明則	部落解放同盟徳島県連合会事務局次長
岡部　義典	徳島部落解放研究所長
朝治　武	大阪人権歴史資料館学芸員
檜　瑛司	徳島県文化財保護審議会委員
武知　忠義	県立鴨島商業高等学校長
小川統史郎	県同和対策課主幹
多田　実	県教委生涯学習課社会教育主事
大岡　慶久	県教委同和教育振興課指導主事
小笠原悠二	県教委文化課文化振興班長
大和　武生	県立文書館長

討議内容は、展示資料の適否、展示にあたっての技術的問題が中心だった。古文書などにある差別語、被差別部落の地名を公開することの当否についても、個別資料に即して討議された。また、第4テーマの展示内容に関して、ストーリー・展示資料を含めた再検討が求められた。

次いで、②についての討議に移ったが、時間が不足し、十分に煮つめることができなかった。しかし、芸能と映画から人権を考える行事を行いたいとする事務局のアウトラインについての提案は了承された。細部については、事務局で検討し、次回の委員会で確定するということになった。

なお、最後に企画展を無料にすべきという意見があり、委員会の総意として無料化を求める旨が確認された。

●第5回：2月10日に開催。委員11名出席。①第4回委員会での積み残し課題である第4テーマと関連行事の内容についての確認、②解説のあり方について検討した。

まず、①について、前回以降の準備状況などを事務局から報告し、討議に入った。大筋としては、事務局案が了承されたが、第4テーマの第1項目を「よみがえった解放運動」とする案が内容的に不適切ではないかという意見、徳島県下の市町村で進んだ「部落差別撤廃条例」についての言及の必要性を主張する意見があった。

次に②に移り、あらかじめ各委員に送付してあった解説パネル原稿、展示解説書原稿をもとにした討議が行われた。とくに、全観覧者の目に触れる解説パネルの内容検討が優先され，事実関係や表記、言葉遣いなど、詳細な検討が行われた。時間的な都合から展示解説書原稿の検討はほとんど行われずじまいだったので、各委員から個別に意見を事務局に連絡するということが確認された。また、意見を踏まえて原稿を改訂したうえで、各委員に個別的に確認を受けるという事務局の方針も了承された。

4．研究成果の公表

(1) 博物館ニュース“Culture Club”欄記事

高島芳弘：那賀川流域の縄文遺跡分布調査．No.10，p.2－3.

両角芳郎：アンモナイトにみられる二型．No.12，p.2－3.

山川浩實：阿南市小勝島の旧海軍特攻隊基地．No.13，p.2－3.

(2) 当館刊行物以外への掲載

＊印は館外の研究者

〈動物〉

Shear, W.*, N.Tsurusaki* and T. Tanabe (1994.1) Japanese chordeumatid millipeds－I. On the genus *Speophilosoma* Takakuwa (Diplopoda, Chordeumatida, Speophilosomatidae). Myriapodologica, 3：25－36.

Shear, W*. and T. Tanabe (1994.1) Japanese chordeumatid millipeds－II. The new genus *Nipponothrix* (Diplopoda, Chordeumatida, Metopidiotrichidae). Myriapodologica, 3：44－51.

Tanabe, T. (1994.3) The milliped genus *Levizonus* (Polydesmida, Xystodesmidae) in Japan. Japanese Journal of Enotomology, 62：101－103.

〈植物〉

阿部近一*・赤澤時之*・木村晴夫*・木内和美*・木下覚*・真鍋邦男*・小川　誠（1993.3）三好町の植物相．郷土研究発表紀要39号（阿波学会総合学術調査報告，三好町）：43－53.

西浦宏明*・森本康滋*・石井愃義*・友成孟宏*・鎌田磨人・井内久利*（1993.3）三好町の植生．郷土研究発表紀要39号（阿波学会総合学術調査報告，三好町）：21－42，付図.

Kamada, M. and N. Nakagoshi* (1993.4) Pine forest structure in a human-dominated landscape system in Korea. Ecological Research, 8：35－46.

鎌田磨人（1993.9）「景観生態学」のめざすもの．IALE-Japan, 1：31－40.

〈地学〉

亀井節夫（1993.11）小さなマンモス．月刊健康11月号：24－26.

亀井節夫（1994.1）理科教育とわたくしたちの郷土．徳島県中学校理科教育研究会研究紀要(40)：6－10.

亀井節夫（1994.2）世界の足跡化石．足跡化石ニュース（23）：1－9.

亀井節夫（1994.3）ヒトはマンモスを滅ぼしたか．朝日百科「動物たちの地球」(139)：200－201.

亀井節夫（1994.3）随想―ゾウと渦潮．“あい”ランド（27）：4.

亀井節夫（1994.3）琉球列島とゾウの渡来．平良市総合博物館年報（4）：50－57.

両角芳郎（1994.12）Our 徳島の自然と歴史の発信基地，徳島県立博物館．文部時報12月号：グラビア.

石田啓介*・寺戸恒夫*・橋本寿夫*・村田明宏*・森永

宏*・中尾賢一・森本誠二*（1993. 3）阿讃山脈西部の和泉層群と中央構造線—徳島県三好町地域の地質と地形—．郷土研究発表紀要39号（阿波学会総合学術調査報告，三好町）：1－19.

中尾賢一（1993. 7） 宮崎平野の更新統・通山浜層の貝類群集の分布と変遷．第四紀研究 32(3)：157－170.

〈考古〉

天羽利夫（1993. 7） 鳥居龍蔵・アジアを巡った町の学者． 文(32)：3 － 5．

天羽利夫（1993. 8） 徳島・異文化との出会い—鳥居龍蔵の見たアジア．徳島新聞 8 月15日朝刊.

天羽利夫（1993.10） 記録写真に見る鳥居龍蔵のアジア調査行（1－5）．徳島新聞10月12－16日.

魚島純一（1994. 3） 高知県香美郡野市町兎田八幡宮所蔵細形銅剣のX線透過撮影および蛍光X線分析について．高知県立歴史民俗資料館研究紀要(3)：50－52.

〈歴史〉

長谷川賢二（1993. 5） こころの歴史への招待（上・下）．徳島新聞 5 月 7 ・ 8 日朝刊.

長谷川賢二（1993.10）「伝統」の創造と再生産—1990年の大嘗祭をめぐる一地方の動向についての断章—．森栗茂一編：都市人の発見，木耳社：145－174.

〈民俗〉

福田珠己・鎌田磨人（1993. 4） 旧焼畑村落における植物の利用—徳島県東祖谷山村の場合．民具マンスリー 26(1)：12－19.

福田珠己（1994. 1） 徳島の地理37，祖谷地方の隠居制．徳島新聞 1 月26日朝刊.

福田珠己（1994. 2） 徳島の地理38，カヤのある風景．徳島新聞 2 月 9 日朝刊.

〈普及〉

徳山 豊（1993. 3） 三好町の水生昆虫．郷土研究発表紀要39号（阿波学会総合学術調査報告，三好町）：99－108.

徳山 豊（1993. 6） オオシマトビケラ．朝日新聞社高松支局編「青い国は輝いているか」：46－19.

徳山 豊（1993.10） 水生昆虫の眼から見た吉野川．徳島の文化 (9)：142－146.

(3) 学会・研究会等での発表

＊印は館外研究者

佐藤陽一（1994. 3） 進化分類へのアダムス合意法の応用：ニシン亜目を例として．第21回四国魚類研究会(高松)および1994年度日本魚類学会年会(東京).

田辺 力（1994. 3） タカクワヤスデ属の地理的変異と分類学的再検討．日本昆虫学会第54回大会(東京).

小川 誠（1993. 5） パソコンによる分布図の自動作成．四国植物研究会例会（高知）.

鎌田磨人・福田珠己・曽宮和夫*（1993. 4） 旧焼畑地域における景観構造の変化とススキの利用形態．第40回日本生態学会大会（松江）.

洪 善基*・中越信和*・鎌田磨人（1993. 4） 農村の植生景観の比較分析—韓国と西日本の事例．第40回日本生態学会大会（松江）.

鎌田磨人・曽宮和夫*（1993. 5） 徳島県東祖谷山村の植生とその分布様式．第37回日本生態学会中国・四国地区大会（高松）.

Kamada.M. and T.Fukuda (1993. 8) The role of *Miscanthus sinensis* grassland for the sustainable land use in Shikoku Mountain range, Japan. XV International Botanical Congress, Tokyo, Symposium "Landscape Ecology for Sustainable Land Use and Restoration of Biodiversity" (Yokohama).

鎌田磨人（1993.12） 景観における自然—人間系の展開，Landscape Ecology からのアプローチ．第183回環境科学共同セミナー（広島大学総合科学部）.

天羽利夫（1993. 8） 鳥居龍蔵の見たアジア．鳴門史学会研究大会「徳島・異文化との出会い」(徳島).

天羽利夫（1993.11） 埋葬頭位から見た四国の古墳．愛媛県大西町シンポジウム「えひめ妙見山古墳」(愛媛).

長谷川賢二（1993.11） 中世における熊野先達支配の展開．第14回山岳修験学会大会（京都）.

福田珠己（1993. 5） 現代文学と故郷 home—増田みず子の作品を例に—．人文地理学会第32回地理思想研究部会（京都）.

徳山 豊（1993. 9） 生物学的水質評価法の意義と問題点．日本水環境学会中四国支部第 3 回水環境懇話会（徳島）.

徳山 豊（1994. 1） 環境教育の一環としての水辺教室．日本理科教育学会四国支部大会（鳴門）.

Ⅲ 資料収集保存事業

資料の収集と保存は、博物館の最も基本的な機能である。当館は徳島の自然や歴史・文化に関する資料を収集するとともに、それぞれの分野でのテーマに応じ、比較資料として県外の資料や外国の資料をも収集対象としている。

資料の収集は、購入・寄贈・寄託・採集・交換など、さまざまな方法で行っているが、とくに県民からの寄贈が多い。資料の購入には、美術品等取得基金を当てている。

今年度は4名（人文2、自然2）の文化推進員・臨時補助員の補助で資料の整理作業を行った。

1．購入資料

●動　物

アマゾン産魚類および爬虫類剝製	3点
アマゾン産魚類剝製	4点
アカウミガメ骨格標本	1点
ミダースオキナエビス他世界の貝	80点
タカラガイ類他世界の貝	533点
ダイオウメロンボラ他世界の貝	70点
ウスバアゲハ属の蝶	58点
東南アジアの蝶（アゲハチョウ）	187点
東南アジアの蝶（タテハチョウ）	4,591点

●植　物

チュンベリー著「日本植物誌」	1点
東祖谷山村の植物レプリカ	6点
シーボルト旧蔵「日本植物図譜コレクション」	3点

●地　学

グロッソプテリス	1点
白亜紀異常巻きアンモナイト	5点
ロシア産オルドビス紀三葉虫	3点
鉱物置換された貝化石	3点
南アメリカ産有用鉱物	4点
自然水銀他元素鉱物	2点
水晶他母岩つき鉱物	8点
菱亜鉛鉱他炭酸塩鉱物	4点
エクロジャイト	1点
バナジン塩鉱他バナジン酸塩鉱物	2点
輝安鉱	1点
燐灰ウラン鉱	1点
異極鉱他珪酸塩鉱物	5点
コランダム他酸化鉱物	4点

●考　古

平壌出土画文帯神獣鏡レプリカ	1点
阿王塚古墳出土画文帯神獣鏡レプリカ	2点

●歴　史

徳島藩関係古文書	9点
阿波国関係絵図複製	51点
四国遍路関係資料	6点
四国遍礼絵図	1点
蜂須賀千松書「高山雪」	1点
松根油増産ポスター	1点
東京日日新聞錦絵	1点
軍用関係資料	10点
阿波国大帳複製	1点
阿波国麻殖郡調黄絁複製	1点
空襲警報発令中表示板他戦争関係資料	9点
阿波の踊り子映画ポスター	1点

●民　俗

四国地方地誌資料	2点
刻み煙草製造業者版木	196点

●美術工芸

第二回内国絵画共進会会場独案内	1点
谷田蒔絵丸形香合	1点
渡辺尚輝筆養老瀧図	1点
守住貫魚筆朝日に松図	1点
鉄崖筆白衣観音図	1点

2．寄贈資料

●動　物（脊椎動物）

コジュケイ	1点	藤本　龍氏
カルガモ	1点	東條　秀徳氏
ムササビほか	2点	谷　口　氏
アオサギほか	6点	寒川　芳彦氏
タシギ	2点	久保　テル氏
メボソムシクイ	1点	竹　内　氏
ウミネコ	1点	柴折裕美子氏
サツキマス	2点	建設省徳島工事事務所
ミソゴイ	1点	高石　康夫氏
ヒメアマツバメ	1点	秋本喜美子氏
ハシボソガラス	1点	曽良　寛武氏
ヤマドリ剝製	1点	東條　秀徳氏
ハクビシン	1点	武内　恵行氏

ナマズ	1点	松村　光紘氏
ツバメ	1点	藤本　龍氏
ゴイサギ	1点	吉田　和人氏
カワアナゴ	1点	太田　茂行氏
ヤモリ	1点	友成　孟宏氏
カズハゴンドウ	1点	松田　清美氏
テン	1点	笠井　利幸氏
アユカケ	2点	建設省徳島工事事務所
アユカケ	2点	畦内　吉郎氏
ニホンジカ	1点	坂東良二郎氏
吉野川産魚類液浸標本	多数	徳島県水産試験場
キツネほか剝製	5点	新居　正利氏
ニホンジカ	1点	徳島県阿南農林事務所
ダイサギ	1点	藤本　裕造氏
キジ	1点	武内　良行氏
テン	1点	真鍋　佳資氏
ミサゴほか	多数	曽良　寛武氏
ジョウビタキ	1点	川口　喜男氏
魚類液浸標本	多数	田端　重夫氏
ニホンカモシカ	1点	前川　博氏
鳥類仮剝製	100点	阿部　永氏
脊椎動物骨格標本	20点	阿部　永氏

●動　物（無脊椎動物）

イセエビ幼生	265点	中村　和夫氏
ホウネンエビ	32点	山田　真也氏
ダニ	1点	神野　友彦氏
吉野川河口産甲殻類	26点	團　昭紀氏
オカヤドカリ	1点	佐藤　政一氏
ヤミノニシキ	12点	横川　浩治氏
陸産貝類ほか	約15,000点	阿部　永氏

●動　物（昆虫）

北海道産ミヤマカラスアゲハ春型	8点	加々美好信氏
リュウキュウムラサキ大陸型♀	1点	小野　香織氏
カワラハンミョウ	1点	真野　俊作氏
ウスバアゲハ属標本	177点	盛　重知氏
徳島県産甲虫類	28点	増田　敏雄氏
ルリクワガタのなかま	22点	大塚　直樹氏
徳島県産甲虫類	1,158点	内田　清氏

●植　物

植物さく葉標本（阿部近一コレクション）	40,000点	阿部　永氏
植物さく葉標本	300点	里見　信生氏
植物さく葉標本	300点	矢内　正弘氏
植物さく葉標本	120点	藤本　義昭氏
植物さく葉標本	10点	赤澤　時之氏
植物さく葉標本	6点	片山　泰雄氏
植物さく葉標本	5点	田渕　武樹氏
植物さく葉標本	2点	真鍋　邦男氏
種子標本	10点	安田　雅俊氏
種子標本	1点	東　六郎氏
キノコ標本	1点	小泉　利男氏

●地　学

黄鉄鉱	1点	日和佐町公民館
桑野川河口の沖積層貝化石	多数	神崎製紙
和泉層群産化石	7点	板東　一郎氏
カナダ産三葉虫、アンモナイト化石	5点	立石　和子氏

●歴　史

日中戦争・太平洋戦争関係資料	90点	市橋　唯雄氏
日中戦争関係資料	3点	増田　清人氏
石錨	1点	土佐　智子氏
皇朝史略他和本	67点	鎌田　修治氏
松平千松丸書「福因意積」	1点	近藤　博之氏
伊藤博文胸像陶板	1点	森崎　太郎氏
代用毛布	1点	本田　昇氏
小勝島特攻隊基地関係資料	5点	関　進氏
板碑等拓本	192点	石川　重平氏
水平社運動関係資料	4点	

（寄贈者の意向により、寄贈者名は非公開）

●民　俗

太夫衣装肩衣	6点	茶園　義男氏
オルガン他	24点	市橋　俊文氏
祖谷渓風光写真帖	1点	市橋　俊文氏
農具	12点	庄野　節夫氏
藍作道具	5点	岡野寿美子氏
ランプ	1点	市橋　俊文氏
養蚕道具他	25点	佐藤　好昭氏
杠秤	1点	木村　富雄氏

3．寄託資料

●考　古

平型銅剣（重要美術品）	1点	神山町長

●歴　史

火縄銃鉄砲	1点	牛尾良太郎氏

●民　俗

鬼神面	1点	田中　合氏
若い男面他	6点	中山　嘉洸氏

●美術工芸

徳島天神夏祭賑ノ図	1点	斎藤　真倫氏
閑々子関係作品	23点	斎藤　真倫氏

4．資料の貸出

●動　物

トカゲゴチほか液浸標本
7点　山川　武氏（高知高等学校）
スズキ液浸標本
1点　横川　浩治氏（香川県水産試験場）

●考　古

若杉山遺蹟出土品　4点　徳島県観光物産課
畑田銅鐸レプリカほか
21点　島根県立八雲立つ風土記の丘資料館
源田銅剣　1点　元興寺文化財研究所
辰砂原石　1点　アスティ徳島
有舌尖頭器ほか　39点　徳島市教育委員会

●民　俗

水車　1点　徳島地方史研究会

5．館蔵資料数

平成6年3月末日現在の分野別収蔵資料数は下表のとおり。

6．資料収集委員会

館長の諮問に応じて博物館における購入資料について審査する機関として、博物館資料収集委員会が設置されている。本委員会は、「美術品等取得基金による美術品等の取得要領」の規定に従って、200万円以上の購入資料について審査する。

委員は常任委員（5名以内、任期2年）と、特別委員（3名以内）から構成されており、特別委員は購入資料に応じて特に必要がある場合に、その都度委嘱される。

今年度は、平成6年1月26日に委員会を開催し、2年間の任期満了に伴う委員長・副委員長の選出後、1件6点の資料購入を諮問した。

●博物館資料収集委員会委員（常任委員）
（◎委員長、○副委員長）

氏　名	役　職（専門分野）
生野　勇	日本美術刀剣保存協会評議員（美術工芸）
石井　愃義	徳島大学総合科学部助教授（生物）
石田　啓祐	徳島大学総合科学部助教授（地学）
○高橋　啓	鳴門教育大学学校教育学部教授（歴史）
◎湯浅　良幸	徳島史学会会長（民俗）

7．文献資料の収集

文献資料から得られる情報は、調査研究はもちろんのこと、展示や普及教育などの博物館活動全般にわたるレベルアップをはかるために不可欠である。当館では、人文・自然分野の専門書や学会誌のほかに、徳島県を中心とした地方誌類や教育普及用図書も収集している。

収集の手段として、購入のほかに、国内・国外の博物館施設、大学および研究機関などの出版物も、当館

●分野別収蔵資料数（平成6年3月31日現在）

分　野	点　数	内訳			
		実　物	レプリカ	模型・模写	文　献
動　物（脊　椎）	3,011	2,954	51	5	1
（無脊椎）	22,190	22,187	0	3	0
（昆　虫）	63,512	63,268	0	2	242
植　物	166,499	166,351	56	5	87
地　学	3,536	3,494	40	2	0
考　古	848	721	67	1	59
歴　史	3,838	3,335	14	4	485
民　俗	2,549	2,539	5	5	0
美術工芸	4,915	4,912	0	3	0
合　計	270,898	269,761	233	30	874

出版物との交換により収集している。

●**購入図書**冊数（データベース登録数）

6,839冊（平成5年度分　531冊）

●**逐次刊行物等受入れ冊数**

8,661冊（平成5年度分　541冊）

●**購入雑誌**

人文系（36タイトル）：季刊考古学，九州考古学，芸術新潮，芸能史研究，月刊文化財，考古学研究，考古学雑誌，考古学ジャーナル，考古学と自然科学，古代学研究，古代文化，国華，古美術，古文化財の科学，古文書研究，史学雑誌，地方史研究，地理，日本史研究，日本の美術，日本民俗学，日本歴史，美術研究，美術史，仏教芸術，文化財発掘出土情報，民族学研究，歴史学研究，歴史地理学，歴史手帖，歴史と地理，歴史評論，列島の文化史，Annual Review of Anthropology，Folk-Lore，Journal of American Folklore

自然系（35タイトル）：アニマ，遺伝，インセクタリウム，海洋と生物，貝類学雑誌，科学，科学朝日，月刊海洋，月刊地球，月刊むし，子供の科学，昆虫と自然，生物科学，第四紀研究，地学雑誌，ちりぼたん，日経サイエンス，日本応用動物昆虫学会誌，日本生態学会誌，ニュートン，バーダー，プランタ，American Naturalist，Cladistics，Ecological Research，Entomology Abstracts，Evolution，Geology，Journal of Evolutionary Biology，Journal of Palaeontology，Oikos，Paleobiology，Plant Systematics & Evolution，Trends in Ecology and Evolution，Zoological Science

●**当館刊行物の定期発送先数**（平成6年3月末現在）

博物館ニュース		1,166ヶ所
博物館年報		407ヶ所
研究報告	国内	422ヶ所
	国外	120ヶ所
展示解説		190ヶ所
企画展図録	人文	170ヶ所
	自然	78ヶ所

8．赤澤コレクションの整理

赤澤時之氏はタヌキショクダイの原記載者で、徳島県在住の植物分類研究者である。本コレクションは赤澤氏が長年にわたる研究活動を通じて収集した植物さく葉標本であり、平成2年に博物館に寄贈を受けた。標本数は10万点を越え、赤澤氏が新分類群として記載した基準標本を含む大量で種類の豊富なコレクションである。

平成3年度から本コレクションの整理をはじめ（小川が担当）、平成4年度には臨時職員1名が植物標本整理の補助につき、アザミ属、ヤマハハコ属など46分類群848点の標本のデータ入力を終えた。

作業の大部分は産地や採集日のデータをパソコンに入力しデータベース化することであるが、他の寄贈標本のデータ入力と平行して作業を進めているため、処理件数が少ないのが問題点となっている。

9．阿部コレクションの受け入れ

阿部近一氏は、長年にわたり徳島県の生物相について調査研究を行い、徳島県の野外生物学をリードしてこられた。また、徳島県の文化財保護審議会会長なども務められたが、平成5年の2月に他界された。阿部氏は、徳島県の生物相調査の過程で数多くの植物さく葉標本、陸産貝類標本、鳥類の仮剝製標本などを収集し保管してこられた。

阿部近一氏は植物についての長年の研究成果を、平成2年に「徳島県植物誌」としてまとめられたが、これは氏が収集した標本に基づいて書かれたものであり、「阿部コレクション」における植物さく葉標本は、徳島県の植物相を知る上でなくてはならない資料となっている。また、氏は陸産貝類についても詳しい調査を行っており、徳島県内でこれだけのまとまった標本は例をみない。さらに氏はいくつかの新種も記載しており、そうした標本もコレクションに含まれている。これらの標本は、今後、徳島や四国の生物相を明らかにする上でなくてはならないものである。

当館では、阿部　永氏（近一氏の長男）の申し出により、阿部コレクションの一括寄贈を受けた（平成6年3月受け入れ）。今後順次整理していくことにしている。

阿部コレクションの概要は次のとおり。

- 植物さく葉標本（1部B4台紙貼り、ラベル付、約40,000点）
- 陸産貝類乾燥標本（ラベル付、約15,000点）
- 鳥類仮剝製（ラベル付、100点）
- 脊椎動物標本（20点）

10．資料データベース

平成5年度は、現システムの手直し希望は提出せず、次期システムの設計検討のみを行った。

次期システムは、全体としてみるとワークステーションと Macintosh を端末機としたクライアントーサーバ型のシステムになる予定であるが、博物館の資

料管理に関してはかなり独立したスタイルとなる。また、全体のOSや端末機の機種決定は6年度の前半になる予定で、次期システムは平成7年度にスタートすることになる。

主な博物館の希望、システム設計側との協議内容は次のとおり。

(1) 博物館の資料管理用データベースの考え方

①資料管理用の台帳作成は学芸員の業務の一つとして位置づけるが、大型汎用機やワークステーションのOSなどによるシステム的な制約はできるかぎり受けない形でシステムを構築することとしたい。
②各担当ごとに分野ごとのファイルを作成し、レイアウトや出力などを簡単に学芸員が管理できるようにする。
③端末上で市販のデータベースソフトを利用して台帳を作成・管理する。データファイルは博物館の部門サーバに保管するが、各担当もデータの保管を並行して行う。
④利用するソフトは検討中である。
⑤データのバックアップを主目的として総合サーバ（ワークステーション）へデータを転送する。
⑥人文系においては、検索系は全分野を横断検索できるようにする。
⑦一般情報提供用として資料台帳の公開は原則として認めるが、サービスとしては弱いので、別の内容を番組的に作成して提供することを考える。

(2) 情報提供用のデータベースの考え方

①資料台帳を検索して各収蔵資料のデータを公開してもそれから得られる情報を一般の利用者が十分に活用できるとは考えにくく、台帳公開は最少のサービスであると考える。
②台帳からの情報を公開する場合でも、種ごとの採集データから緯度と経度の情報を作成し、分布図などが自動作成できるようなことも考える。
③検索や分類群を表示する場合にも、写真や絵をとりいれ、視覚的にわかりやすくし、できる限りキーボードからの文字の入力を減らすように検討する。
④分類群ごとや分野ごとにテーマを設けたり、適当なタイトルで番組として提供することを考える。

(3) 図書システムについて

①博物館の図書の管理は、現システムのように図書館システムの汎用機のソフトで作成された管理システムではきわめて使いにくいので、博物館独自にカード型ソフトを利用した台帳を作成する。
②図書情報提供用には、書名や著者名などの項目を一致させて情報提供用のワークステーションへデータを転送し、それを利用してもらう。

11. 資料の燻蒸

収集した資料、貸し出し後返却された資料および借用した資料は、原則としてすべて、収蔵庫への搬入、展示に先だって燻蒸を行う。

資料の形態や量などによって、次の3種類の燻蒸を行っている。

(1) 減圧燻蒸装置による燻蒸

小型資料の燻蒸は、資料の受入などのつど、担当学芸員が減圧燻蒸装置を使って行う。

減圧燻蒸装置の有効内寸は、たて130㎝×よこ120㎝×奥行140㎝（約2.3㎥）で、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成5年度は6回の減圧燻蒸装置による燻蒸を行った。

(2) 常圧燻蒸庫での燻蒸

減圧燻蒸装置に入らない大型の資料は、一時保管庫（24時間空調）に仮収蔵し、資料が適当な量になった時点で常圧燻蒸庫で燻蒸する。

常圧燻蒸庫は、床面積20㎡×高さ3m（約60㎥）である。常圧燻蒸庫での燻蒸は、文化財専門の燻蒸業者に委託し、燻蒸剤には臭化メチルと酸化エチレンの混合ガスを使用している。

平成5年度は3回行った。

(3) 収蔵庫の全室密閉燻蒸

収蔵庫への出入りなどにともなって、害虫やカビなど、資料の保存に悪影響を与えるものが侵入することがある。そのために、原則として3年に1回、専門業者に委託して、収蔵庫の全室密閉燻蒸を行う。

平成5年度は、歴史民俗収蔵庫、特別収蔵庫1、特別収蔵庫2、馴化室、生物収蔵庫および考古収蔵庫のガス（臭化メチルと酸化エチレンの混合ガス）による全室密閉燻蒸と、地学収蔵庫の薬剤散布による害虫駆除を行った。

Ⅳ 普及教育事業

普及教育事業、とくに普及行事は、「開かれた博物館」をめざし、館員が県民と直接対話できるよい機会であり、力点をおいて取り組んでいる。

平成５年度は、年間54回の普及行事を実施した。博物館の普及行事が県民のあいだに定着してきており、参加者も徳島市内とその近郊在住者から郡部へと広がりつつある。実施回数としては最大限であろうと思われるので、今後は、マンネリ化しないよう、参加者の反応を十分把握しつつ、内容の充実を図っていかなければならない。

博物館友の会も実質的な活動の２年目を迎え、様ざまな活動を行った。

１．普及行事

■体験学習

大昔の人の生活に関係ある「ものづくり」の体験を通じて、ものの性質や当時の人びとの生活の知恵を学ぶシリーズ。５年度も「土器づくり」を実施した。

10月31日(日)	土器づくり（成形）	39人
11月21日(日)	〃　（焼成）	雨天中止

■歴史散歩

県内の主な遺跡、伝統産業などをまわる行事。昨年度までは「親子歴史教室」として、小学校４～６年生とその保護者を対象に実施していたが、今年からは誰でも参加できるシリーズに衣替えした。

５月16日(日)	古墳見学	40人
９月26日(日)	脇町を歩こう	31人
10月１日(日)	徳島城めぐり	35人
３月20日(日)	国府町の遺跡めぐり	58人

■野外自然かんさつ

季節に応じた動植物の観察や地質見学を行っている。文化の森周辺のほかに、鳴門市（磯の動物）、海部町（県南の植物）、香川県東部（翼山の地質）などで実施した。

５月９日(日)	花と虫のかんさつ	21人
５月23日(日)	磯の動物	37人
７月25日(日)	水生昆虫のかんさつ	雨天中止
９月18日(土)	鳴く虫のかんさつ	41人
10月24日(日)	地質ハイキング	22人
11月７日(日)	植物たちの秋	18人
11月28日(日)	県南の植物かんさつ	31人
12月19日(日)	翼山の地質見学	22人

■土曜講座

毎月第２土曜日の午後２時から１時間ほど、学芸員が各自の研究テーマ周辺の話題について話をする講座。申し込みは不要で先着50名を受け付ける。昨年までは第３土曜日に実施していたが、学校週５日制との関連もあり、第２土曜日に変更した。

４月10日(土)	鳴門のゾウ	亀井	37人
５月８日(土)	文化財の保存と科学	魚島	24人
６月12日(土)	はにわに見る風俗	天羽	27人
７月10日(土)	韓国の農村－その自然とくらし	鎌田	27人
８月14日(土)	阿波おどりの歴史	山川	26人
９月11日(土)	雑草のくらし	小川	31人
10月９日(土)	「ふるさと」のうつりかわり	福田	8人
11月13日(土)	火砕流と火山灰のはなし	中尾	12人

歴史散歩「国府町の遺跡めぐり」

野外自然かんさつ「県南の植物かんさつ」

12月11日(土)　山と祈り　長谷川　21人
1月8日(土)　進化のはなし　田辺　28人
2月12日(土)　昆虫の食べ物　大原　28人
3月12日(土)　日本の工芸・蒔絵　大橋　23人

■ミュージアムトーク

平日の参加者をねらった土曜講座の平日版といったシリーズ。5年度は「食」と「旅」の2つのテーマをとりあげ、それぞれ3回ずつ違った角度から考えてみるという、連続講座の形式を試みた。

6月2日(水)　食①：化石に残された古生物の食生活　9人
7月7日(水)　食②：古代人の食べ物　16人
8月4日(水)　食③：日本の「食」づくり　12人
1月12日(水)　旅①：昆虫の旅　6人
2月9日(水)　旅②：霊場と旅　51人
3月9日(水)　旅③：旅と情報　25人

■標本の作り方、名前の調べ方

採集した動植物を標本にするのはどのようにしたらよいか、名前を調べるにはどんな点に注意して観察したらよいかを学ぶ講習会。

「標本の名前を調べる会」は毎年8月下旬の恒例の行事で、学芸員のほか8名の外部講師の応援を得て行った。単に名前を教えるだけにならないよう、いっしょに調べる姿勢で取り組むように留意している。

6月6日(日)　魚の液浸標本の作り方　3人
7月24日(土)　おし葉標本の作り方　11人
8月8日(日)　草や木の名前の調べかた　16人
8月24日(火)　標本の名前を調べる会　41人
8月25日(水)　〃　73人
9月26日(日)　化石の薄片標本の作り方　11人

■室内実習

主に実習室で行う各種の観察・講習会。内容に応じて、顕微鏡、走査型電子顕微鏡、X線撮影装置等の機器も併用して観察を行っている。

4月18日(日)　ミクロの世界①　18人
6月20日(日)　動物の骨格を調べる　1人
7月18日(日)　文化財をのぞいてみよう　15人
8月29日(日)　ミクロの世界②　27人
9月12日(日)　美術品の取扱い方　23人
11月21日(日)　ミクロの世界③　20人
12月12日(日)　土壌動物のかんさつ　9人
1月23日(日)　拓本をとろう　26人
2月6日(日)　地質図づくり　18人
2月13日(日)　レプリカづくり①　27人
2月20日(日)　ミクロの世界④　26人
3月6日(日)　レプリカづくり②　27人

■企画展解説講座

10月17日(日)　鳥居龍蔵の足跡　38人

■企画展記念講演会

企画展開催中に、21世紀館イベントホールで次の講演会を行った。

●「祈り・のろい・はらい」展記念講演会　4月25日(日)
講　師：小松和彦氏（大阪大学文学部助教授）
演　題：「魔よけをめぐるフォークロア」
参加者：205人

●「南アメリカの自然」展記念講演会　8月1日(日)
講師・演題：
①冨田幸光氏（国立科学博物館主任研究官）
「南アメリカの哺乳動物—その進化の歴史」
②小野幹雄氏（東京都立大学理学部教授）
「アンデスとパタゴニア—南アメリカの植物地理」
参加者：96人

●「鳥居龍蔵の見たアジア」展記念講演会　11月3日(水)
講　師：宗　文薫氏（国立台湾大学文学院教授）
演　題：「鳥居龍蔵と台湾」
参加者：149人

2. 講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等

館外からの依頼を受けて行った講師派遣、テレビ・ラジオへの出演等を、月日・担当者・内容（依頼者）の順に記録しておく（内容で依頼者が分かる場合には後者を省略）。これらも広義の普及活動につながるとの観点から、業務に支障のない範囲で依頼を受け入れることにしている。

5月15日　徳山　豊・佐藤陽一　「水辺教室とじんぞく狩り」講師（徳島市一宮小学校）
7月3日　亀井節夫　平良市総合博物館講演会講演「琉球列島とゾウの渡米」
7月15日　徳山　豊　「那賀川水系の水生昆虫の観察」講師（木頭中学校）
7月24日　佐藤陽一　四国放送「ふるさとトークみらい21—吉野川河口の自然」出演
7月25日・8月22日　高島芳弘　「縄文土器を焼く会」講師（井川町）
7月27日　徳山　豊　「親子水辺教室」講師（徳島市役所）
8月6日　魚島純一　徳島県立文書館「文書資料保存研究会」講師

9月21日　亀井節夫　徳島県シルバー大学講演「太古の世界をさぐる」
10月31日　天羽利夫　特別展記念講演会講演「四国の古墳文化」（島根県立八雲立つ風土記の丘資料館）
11月3日　両角芳郎　企画展「海と竜展」解説講座講演「和泉層群の地層と化石」（兵庫県立人と自然の博物館）
11月5日　福田珠己　厚生年金しあわせ大学講演「民家の保存と展示—さまざまな博物館」（徳島厚生年金会館）
11月15日　亀井節夫　中・四国中学校理科教育研究大会講演「理科教育とわたくしたちの郷土」
12月18日　長谷川賢二　NHK「炎立つ」テレビゼミナー講演「王権・武士・呪術」（NHK徳島放送局）
1月22日　長谷川賢二　NHK「炎立つ」テレビセミナー講演「内乱と奥州藤原氏」（NHK徳島放送局）
2月19日　長谷川賢二　NHK「炎立つ」テレビセミナー講演「源義経と阿波」（NHK徳島放送局）
2月19日　天羽利夫　埋蔵文化財シンポジウム「ムラからクニへ」コーディネーター（徳島県教育委員会文化課）
3月3日　亀井節夫　滋賀県高等学校理科教育研究会講演「地学むかしばなし」

以上のほか、NHKテレビ「ホットチャンネルとくしま—徳島の文化財」への出演依頼があり、次のように出演した。月日・出演者・タイトルは次のとおり。

4月20日　高島　芳弘　那賀川の縄文遺跡
5月18日　長谷川賢二　まじない
6月29日　鎌田　麿人　三嶺・天狗塚のミヤマクマザサ—コメツツジ群落
9月28日　山川　浩實　徳島藩参勤交代絵巻
10月19日　大橋　俊雄　画人守住貫魚
11月16日　小川　誠　ナカガワノギク
12月14日　天羽　利夫　地蔵院古墳
1月18日　魚島　純一　銅鐸
2月8日　中尾　賢一　宍喰浦の化石蓮痕
3月1日　天羽　利夫　国府町の遺跡

3．博物館実習生の受け入れ

平成5年度は、8月2～6日と8月23～27日の2回、博物館実習生の受け入れを行った。実習生の総数は26人（男1人、女25人）で、大学別の内訳は次のとおり。

四国大	13人	都留文科大	1人
徳島大	7人	神戸女子大	1人
徳島文理大	2人	広島文教女子大	1人
群馬大	1人		

実習のカリキュラムは前期と後期で若干異なるが、人文関係では考古資料の整理分類、民俗資料の整理分類、美術品の取扱い方、歴史資料の調査など、自然関係では地学標本の整理、昆虫標本の整理、無脊椎動物の採集、「標本の名前を調べる会」の補助などを行った。また、近代美術館、文書館の見学も行った。個々の実習については、各担当分野の学芸員が指導に当たった。

4．博物館の広報活動

博物館ニュースをはじめ、催し物案内ポスター、企画展ポスター等を定期的に幅広く配布することにより、博物館活動をPRしている。月間行事案内については、県庁記者クラブを通じて広報するほか、報道機関やタウン紙編集室などへも直送している。また、必要に応じて報道機関への資料提供も行った。

●博物館ニュース、ポスター等の主な定期発送先（県内）

小学校	272ヶ所
中学校	96ヶ所
高等学校・その他学校	63ヶ所
学会・同好会等	12ヶ所
県及び県教育委員会各課・機関	101ヶ所
市町村教育委員会	50ヶ所
公民館・隣保館	195ヶ所
市町村及び大学図書館	21ヶ所
博物館施設	32ヶ所

●平成5年度資料提供

4月7日　ラプラタ大学からの哺乳動物化石標本の寄贈について
6月29日　企画展「南アメリカの自然」の開催について
9月28日　企画展「鳥居龍蔵の見たアジア」の開催について
12月14日　ラプラタ記念ホールの展示更新について
1月17日　人文系資料の寄贈について

以上のほか、美術品等取得基金によって博物館資料の購入を行った5月末、8月末、11月末、1月末、3月末に、文化の森室を通じて、購入資料の内容についての資料提供を行った。

5．普及教育関係出版物

(1) 博物館ニュース

B5判、8ページ（4カラーページ）、3,000部、年4回発行。

館の広報誌で、内容は、学芸員の研究の一端を紹介する”Culture Club”、館蔵品紹介、企画展案内、探

検博物館、博物館をとりまく活動、普及行事の案内と記録などから構成されている。

5年度には、No.10（1993年4月10日発行）、No.11（7月10日）、No.12（10月9日）、No.13（1994年1月10日）を発行した。

(2) 博物館見学ノート（第2版）（1994年3月31日発行）

B5判、56ページ、2,000部＋500部（友の会増刷分）

小・中学校の児童・生徒が博物館の展示を利用するにあたり、目的意識をもって観覧できるようにとのねらいで作成されたワークシート形式のテキスト。1テーマ1ページで、その中に数個の設問があり、展示を見ながらそれに回答を記入できるようになっている。初版（1992年発行）の32テーマから45テーマに増補改訂した。

県内の小・中学校に配布するほか、遠足等の下見に来た教員にも渡して利用してもらうことにしている。

(3) その他

●博物館催し物案内ポスター

1年間の普及行事予定をB4およびB2判のポスターにしたもの。博物館ニュースとともに発送するほか、展示室入り口に置いて来館者に自由にとってもらったり、普及行事の参加者に配布したりしている。

●月間行事案内

各月の普及行事の実施要領、申し込み方法等の案内を印刷したB4一枚のビラ。報道関係機関等に配布するほか、来館者にも提供している。

●博物館引率の手引き

学校の遠足などの利用に役立つよう、博物館の入館案内、見学に当たっての留意点、観覧料減免申請手続きなどについて説明した小冊子。年度始めに県内各学校に送付している。

6．博物館友の会

徳島県立博物館友の会は、博物館活動を通じて広く自然と文化に親しむとともに、会員相互の教養の向上と親睦を図ることを目的とする会である。

●会員（平成5年度末）

個人会員（年会費 2,000円）		104人
家族会員（年会費 3,000円）	135組	561人
賛助会員（年会費10,000円）	1組	

●役員（平成5年度）

会　長：寺戸恒夫
副会長：亀井節夫（博物館長）
幹　事：和田賢次・田淵武樹・石原　侑・森本嘉訓・川下景子・吉村博子・真貝宣光
監　査：近藤康男・柏野寿一

●事業

①博物館出版物の増刷・領布

博物館発行の企画展図録、展示解説第2集（博物館へいこう）、博物館見学ノートを増刷し、領布した。

②広報活動

5年度会員に対し、博物館ニュース、企画展ちらし、毎月の行事案内、年間の催し物案内を送付した。

③企画展説明会

企画展「祈り・のろい・はらい」、「南アメリカの自然」、「鳥居龍蔵の見たアジア」の開催にともない、期間中に会員を対象として説明会を開いた。

④野外活動等

会員を対象とした野外活動等を4回実施した。

○大谷焼周辺史跡見学とハイキング
日　時：5月30日（日）10時～14時
場　所：鳴門市大麻町
参加者：57名

○博物館裏側見学
日　時：7月25日（日）11時～12時
場　所：徳島県立博物館
参加者：36名

○地引き網
日　時：8月7日（土）10時～13時
場　所：阿南市中林町北の脇海水浴場
参加者：94名

○河野メリクロン見学とハイキング
日　時：11月20日（土）10時～14時
場　所：美馬郡脇町
参加者：12名

V 管理運営

1．組織・職員

(1) 組織図（平成6年4月1日現在）

- 館長 (1)
  - 副館長 (1)
    - 総務課
      - 庶務係（事務職員2）（臨時補助員1）
      - 普及係（事務職員2）（臨時補助員1）（受付案内員8）
  - 副館長 (1)
    - 自然課（学芸員7、文化推進員2、臨時補助員1）
    - 人文課（学芸員6、文化推進員1、臨時補助員1）
- 博物館協議会

(2) 職員名簿（平成6年4月1日現在）

館　　長　亀井　節夫
副 館 長　藤本　憲和
〃　　天羽　利夫

〈総務課〉

総務課長（庶務係長兼務）　林　　正明
事務主任　川人　久子
普及係長　徳野　壽治
主　　事　中村　顕也
臨時補助員　北井真由美
〃　　津川　美穂
受付案内員　桐川いずみ
〃　　栗城　和代
〃　　吉岡希実子
〃　　浦川　　馨
〃　　永田　朋子
〃　　炭谷　登子
〃　　吉原　真琴
受付案内員　藤井香代子

〈自然課〉

自然課長　両角　芳郎（地学）
主任学芸員　大原　賢二（動物）
学芸員　佐藤　陽一（〃）
〃　　小川　　誠（植物）
〃　　田辺　　力（動物）
〃　　鎌田　磨人（植物）
〃　　中尾　賢一（地学）
文化推進員　中本　貞代
〃　　太田　陽子
臨時補助員　元木　美穂

〈人文課〉

人文課長　山川　浩實（歴史）
主任学芸員　高島　芳弘（考古）
学芸員　大橋　俊雄（美術工芸）
〃　　魚島　純一（考古）
〃　　長谷川賢二（歴史）
〃　　福田　珠巳（民俗）
文化推進員　武知　説子
臨時補助員　植田　貴代

(3) 人事異動（カッコ内は前職）

〈平成6年4月1日〉

転出：井内　勉（副館長）、物産観光事務所長へ
〃：徳山　豊（普及係長）、入田小学校教頭へ
退職：中川和子（主査）
転入：藤本憲和・副館長（畜産課課長補佐）
〃：徳野壽治・普及係長（鷲敷中学校教諭）
〃：川人久子・事務主任（聾学校事務主任）

(4) 平成5年度非常勤・臨時職員

●館長（非常勤特別職）
亀井　節夫（平4．4．1～　　）
●文化推進員（非常勤特別職）
武知　説子（平4．7．1～　　）
中本　貞代（平5．4．1～　　）
●臨時補助員
田中　佐智（平5．4．1～平6．1．31）
町田　穏子（平5．4．1～平6．3．31）
岩佐　春香（平5．4．1～平6．3．31）
島崎　純香（平5．4．1～平6．3．31）
●受付案内員（非常勤特別職）
渡辺　早苗（平2．10．1～平6．3．31）
柳川　誠子（平2．11．1～平6．3．31）
桐川いずみ（平4．1．7～　　）
栗城　和代（平4．4．1～　　）

●平成５年度博物館費（２月現計予算額）

（単位；千円）

科　目	予算額	管理運営	展覧事業	調査研究	資料収集保存	普及教育
報　酬	26,288	26,288				
賃　金	8,177	8,177				
報　償	1,423		832	339	102	150
旅　費	12,815	3,234	4.563	3,992	894	132
需　用	32,439	4,880	13,851	5,236	6,267	2,205
役　務	18,171	2,446	12,072	573	2,200	880
委　託	12,678		8,646		4,032	
借　損	711	291	120	100		200
備　品	48,959	2,426	219	250	＊45,914	150
負　担	120	60		60		
計	161,781	47,802	40,303	10,550	59,409	3,717

註）＊のうちには、資料購入費40,000千円を含む。

吉岡希実子（平４．４．１～　　）
柳川　佳代（平４．４．１～平５．６．７）
浦川　　馨（平４.10.１～　　）
東　　裕子（平５．４．１～平６．３.31）
永田　朋子（平５．７．１～　　）

２．予算

２月現計予算額（２月補正後の予算額）を上表に示す。

３．博物館協議会

徳島県立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関で、博物館法及び徳島県文化の森総合公園文化施設条例の規定に基づき設置されている。

５年度は協議会を１回開催した。

●５年度博物館協議会

日時：平成５年７月30日（金）　10：30～12：00
会場：博物館講座室
議事
・平成４年度決算及び事業報告
・平成５年度予算及び事業概要
・その他

４．四国地区博物館協議会・日本博物館協会四国支部総会の開催

四国地区博物館協議会及び（財）日本博物館協会四国支部は、四国地区の博物館及び相当施設の連絡・協議組織で、現在71館（園）が加盟している。四国地区の会長（支部長）を担当する博物館が２年ずつ持ち回りで幹事館をつとめることになっており、平成４、５年度の２年間は当館が幹事をつとめた。

平成５年度の役員会及び総会を次のとおり徳島で

●徳島県立博物館協議会委員名簿

（平成６年３月31日現在）

区　分	氏　　名	役　職　等
学校教育	島　　一夫	県小学校理科教育研究会会長 応神小学校校長
	赤穂　正樹	県中学校社会科教育研究会会長 鳴門第一中学校校長
	林　　啓介	県高等学校社会科学会会長 県立ひのみね養護学校校長
社会教育	福原　健生	徳島市立徳島城博物館長
	冨士貴志夫（会長）	徳島県生涯学習推進会議委員 鳴門教育大学教授
	加茂　重良	徳島市立動物園長
学識経験者	岡田　一郎	徳島県文化財保護審議会委員 海南町教育委員会教育長
	寺戸　恒夫（副会長）	徳島文理大学教授
	野田　良子	徳島県文化財保護審議会委員 四国女子大学教授
	石井　愃義	徳島大学総合科学部助教授

開催した。

日時：平成５年７月１日（木）～２日（金）

会場：ホテル千秋閣、徳島市立徳島城博物館

参加者：41館55名

議事

・平成４年度事業報告及び決算報告

・新規加盟館（園）の承認

・平成５年度事業計画及び収支予算

なお、議事終了後、当館の天羽副館長が「徳島の生んだ先覚者―鳥居龍蔵」と題して講演を行った。また、２日目は研修視察を行い、徳島市立徳島城博物館を見学した。

５．東四国国体の開催にともなう取り組み

平成５年には、徳島・香川の両県で東四国国体（第48回国民体育大会）が開催された（夏期大会：９月５～８日、秋季大会：10月24～29日）。また、11月６～７日には、第29回全国身体障害者スポーツ大会が徳島で開催された。

これらの全県あげての取り組みにともない、博物館でも次のような取り組みを行った。

●夏期大会関係者の博物館見学

夏期大会の開催にともなう９月２～９日の８日間に、82人(常設展65、企画展17)が博物館を訪れた。

●スポーツ芸術協賛企画展の開催

スポーツ芸術は、国体の開催にあたって県民が芸術文化活動を通じて国体に参加し、本県の芸術文化を全国に紹介することを目的とする事業である。

当館では、秋季大会期間中に開催の企画展「鳥居龍蔵の見たアジア」をこのスポーツ芸術協賛事業として、これに参加した(内容の詳細は企画展の項参照)。

協賛会期：10月21日（木）～30日（土）

会期中の国体関係入場者：企画展　219人

常設展　345人

●天皇陛下の行啓

秋季大会開会式に御臨席のため来県された天皇陛下は、10月23日午後、博物館を約１時間にわたって御視察された。

亀井館長・天羽副館長の案内で、総合展示の「銅鐸のまつり」、「蜂須賀氏の入国と徳島城」及びラプラタ記念ホールの展示を中心に御覧になられた。展示全体についてたいへん興味をもたれ、随所でいろいろと御質問された。

●第29回全国身体障害者スポーツ大会関係者の博物館見学

大会終了日翌日の11月８日（月）、699人が博物館を訪れ、休館日であったが、特別に展示室を見学した。

６．各種委員・非常勤講師等の受諾

平成５年度に博物館職員が委嘱を受けた各種委員会委員、大学非常勤講師等は次のとおり。

亀井節夫（館長）

滋賀県琵琶湖東岸・烏丸地区深層ボーリング調査団代表（平成３年～　）

滋賀県湖南自然史調査会顧問（平成４年～　）

日本博物館協会評議員（平成４年～　）

日本博物館協会四国支部長（平成４・５年度）

日本第四紀学会評議員（平成５年～　）

徳島県子ども科学体験施設基本計画検討委員会副委員長（平成５年度）

三重県センター博物館（仮称）建設委員（平成５年４月～６年３月）

桃山大学文学部非常勤講師(平成５年９月～６年３月)

天羽利夫

徳島大学総合科学部非常勤講師(平５．４．１～10.17)

日本放送協会四国地方放送番組審議会委員（平５.11.１～７.10.31）

両角芳郎

四国大学非常勤講師（平５．４．１～10.10）

全国科学博物館協議会「科学系博物館のネットワーク化に関する調査研究委員会」委員（平成５年８月～６年３月）

山川浩實

国立歴史民俗博物館国産紀年銘陶磁器データ集成事業調査員（平成５・６年度）

松茂町歴史民俗資料館協議会委員(平５.11.31～７．３．31)

佐藤陽一

海南町史執筆委員（平成４年～　）

魚島純一

日本文化財科学会文化財科学関係文献目録編集協力者（平２年11月～　）

長谷川賢二

四国大学非常勤講師（平５．４．１～10.10）

7. 観覧者

平成5年度常設展及び企画展観覧者数、年度別累計は別表のとおり。

●平成5年度常設展観覧者数

月	開館日数	有料観覧者									
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）			有料観覧者計
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	
4	25	2,199	170	1,061	255	117	28	237	0	1	4,068
5	26	4,136	249	1,485	632	46	3	298	0	0	6,849
6	25	2,095	97	526	139	36	0	351	0	0	3,244
7	27	2,226	173	1,032	158	0	85	277	0	0	3,951
8	26	5,703	571	3,175	352	0	129	393	1	0	10,324
9	25	2,294	239	639	116	51	23	281	0	1	3,644
10	28	2,122	155	558	329	1	6	474	0	0	3,645
11	24	2,121	161	568	350	0	57	532	1	1	3,791
12	22	1,144	106	352	0	0	0	121	0	0	1,723
1	22	1,459	151	448	64	0	0	149	0	0	2,271
2	23	1,412	109	333	138	0	33	150	0	0	2,175
3	27	1,851	232	797	96	0	0	282	0	0	3,258
計	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,545	2	3	48,943

●常設展観覧者数累計（平2～5年度）

年度	開館日数	有料観覧者									
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）			有料観覧者計
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	
平2	118	49,512	4,218	16,163	6,686	76	1,603	10,359	57	48	88,722
平3	301	55,578	4,749	20,287	6,876	271	1,421	10,028	19	53	99,282
平4	299	33,150	3,318	12,505	3,285	194	420	4,928	48	13	57,861
平5	300	28,762	2,413	10,974	2,629	251	364	3,545	2	3	48,943
累計	1,018	167,002	14,698	59,929	19,476	792	3,808	28,860	126	117	294,808

（単位：人）

無料観覧者											観覧者総数
学校教育								第二土曜無料入館	その他	無料観覧者計	
小学校		中学校		高校		計					
校	人数	校	人数	校	人数	校	人数				
11	1,778	7	1,072	0	4	18	2,854	86	109	3,049	7,117
33	3,618	3	693	3	712	39	5,023	167	260	5,450	12,299
6	715	1	19	1	45	8	779	214	118	1,111	4,355
4	194	2	9	0	0	6	203	96	197	496	4,447
1	5	1	11	1	23	3	39	0	187	226	10,550
0	0	0	0	0	0	0	0	184	165	349	3,993
33	3,036	4	524	0	0	37	3,560	186	481	4,227	7,872
21	1,921	3	591	1	48	25	2,560	92	969	3,621	7,412
0	0	0	0	0	0	0	0	100	8	108	1,831
0	0	0	0	0	0	0	0	63	54	117	2,388
5	477	0	0	0	0	5	477	68	240	785	2,960
4	460	1	20	0	0	5	480	142	376	998	4,256
118	12,204	22	2,939	6	832	146	15,975	1,398	3,164	20,537	69,480

（単位：人）

無料観覧者											観覧者総数
学校教育								第二土曜無料入館	その他	無料観覧者計	
小学校		中学校		高校		計					
校	人数	校	人数	校	人数	校	人数				
55	4,877	6	640	12	1,972	73	7,489		1,066	8,555	97,277
202	26,165	44	6,960	21	2,443	267	35,568		2,267	37,835	137,117
114	10,781	23	3,709	14	3,305	151	17,795	1,401	2,076	21,272	79,133
118	12,204	22	2,939	6	832	146	15,975	1,398	3,164	20,537	69,480
489	54,027	95	14,248	53	8,552	637	76,827	2,799	8,573	88,199	383,007

●平成5年度企画展観覧者数

（単位：人）

企画展名	開催期間	開館日数	有料観覧者										無料観覧者	観覧者総数
			個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）			有料観覧者計		
			一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
祈り・のろい・はらい	4.20～5.23	29	1,989	362	492	0	0	0	244	0	0	3,087	274	3,361
南アメリカの自然	7.24～9.5	38	6,745	561	3,835	191	6	313	297	1	0	11,949	257	12,206
鳥居龍蔵の見たアジア	10.12～11.21	37	1,524	79	148	84	21	83	467	1	0	2,407	1,201	3,608
計		104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175

●企画展観覧者数累計（平成3～5年度）

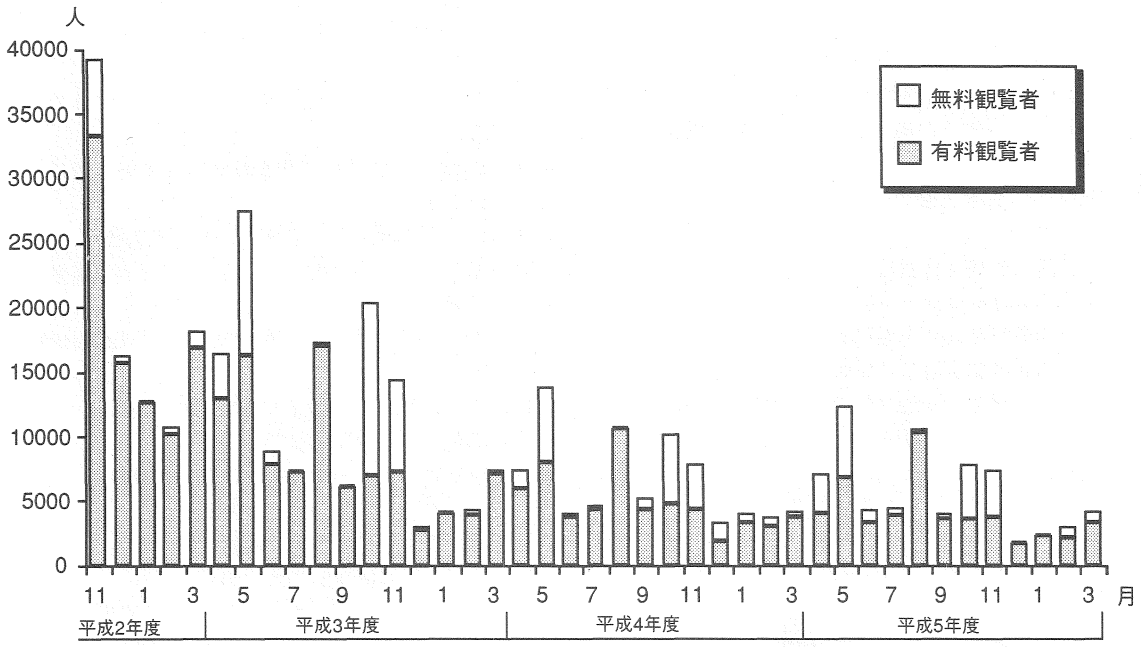
（単位：人）

年度	開館日数	有料観覧者										無料観覧者	観覧者総数
		個人			団体（割引20%）			減免（割引50%）			有料観覧者計		
		一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生	一般	高校・大学生	小・中学生			
平成3年度	120	14,333	1,078	3,796	404	30	661	2,625	20	2	22,949	1,288	24,237
平成4年度	86	12,269	915	6,856	476	55	147	1,226	0	5	21,949	1,143	23,092
平成5年度	104	10,258	1,002	4,475	275	27	396	1,008	2	0	17,443	1,732	19,175
累計	310	36,860	2,995	15,127	1,155	112	1,204	4,859	22	7	62,341	4,163	66,504

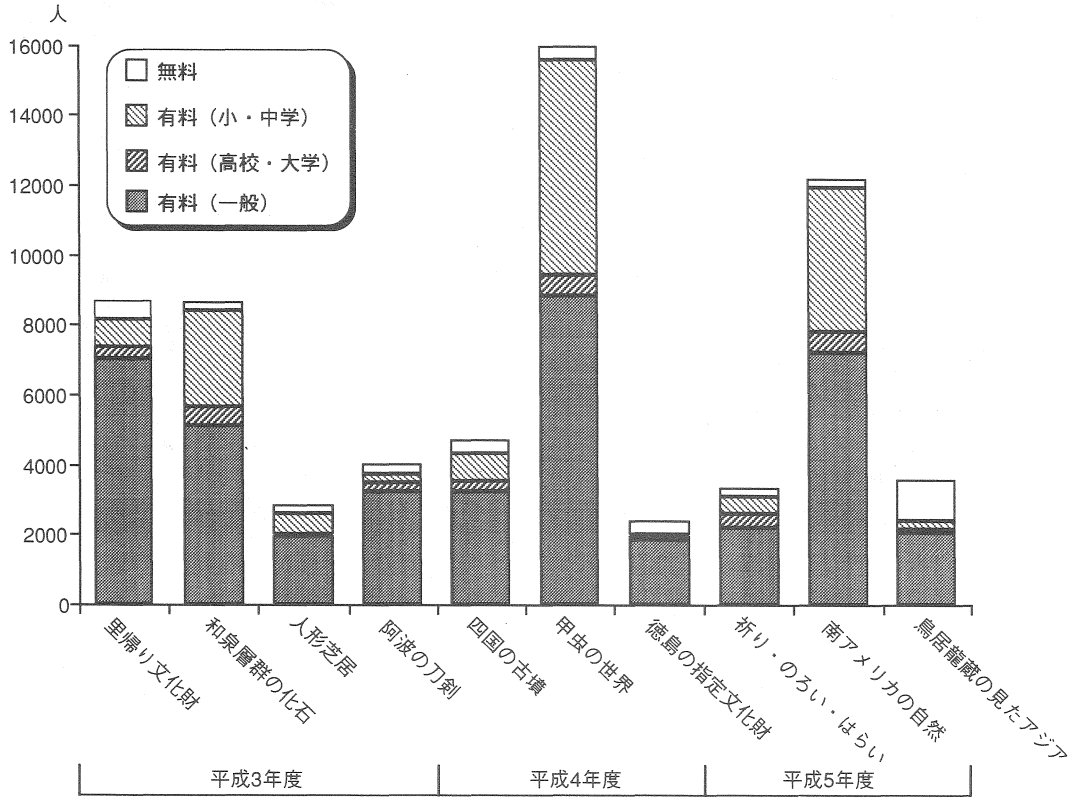
●特別陳列観覧者数累計（平成4～5年度）

展示会名	開催期間	開館日数	観覧者総数
第1回館蔵品展	H5.2.16～3.21	29	6,712
掘ったでよ阿波	H6.2.1～2.27	23	4,090
累計		52	10,802

●常設展の月別観覧者数（平成２～５年度）



●企画展観覧者数（平成３～５年度）



8．視察等博物館関係来訪者

4．4　国立民族学博物館熊倉功夫氏
4．4　文部省雨宮　忠審議官ほか１名
4．12　島根県立八雲立つ風土記の丘資料館近藤加代子氏
4．22　横浜市ふるさと歴史財団学芸員井上　攻氏ほか１名
4．24　北海道大学農学部教授阿部　永氏
4．27　四国市議会議長会一行25名
5．6　鎌倉市教育委員会馬淵和雄氏
5．8　鎌倉市教育委員会永井正憲氏
5．10　高知県立歴史民俗資料館学芸主事梅野光興氏
5．14　広島県埋蔵文化財調査センター調査研究員河野龍彦氏
5．20　三重県教育委員会教育長宮本長和氏ほか６名
5．21　ドイツ大使一行５名
5．26　いわき市教育委員会文化課主査橋本一雄氏ほか１名
6．2　丸亀市立資料館長秋山　徹氏ほか１名
6．3　大洲市教育委員一行６名
6．4　京都文化博物館定森秀夫氏ほか１名
6．5　香川大学教育学部仲谷英夫氏ほか学生３５名
6．17　警察庁公安第２課警衛室長中沢氏ほか３名
6．17　鳥取県教育委員会文化課長補佐浜口豊明氏ほか２名
6．18　神戸市立青少年科学館総務課長三上忠雄氏
7．1　石川県教育委員会生涯学習課長補佐野口倫明氏ほか１名
7．9　県政バス公聴事業参加者一行45名
7．25　高円宮様御視察一行６名
7．29　在京ポルトガル大使ラケル・デ・ベッテンクル・フェレイラ氏ほか７名
7．30　徳島県学校図書館協議会一行150名
8．3　三重県立博物館長冨田靖男氏ほか２名
8．4　徳島市小・中学校教員臨時研修会26名
8．17　徳島市小・中学校教員臨時研修会24名
9．1　アマゾン資料館長山口吉彦氏
9．4　在神戸インドネシア領事館総領事スバギョウ　イルヨハディスブロト氏ほか３名
9．21　大阪府立弥生文化博物館事務局長兼副館長吉房康幸氏
9．25　中国武漢大学教授朱　雷氏、凍　国棟氏
9．25　徳島大学総合科学部54名
9．28　群馬県教育委員会文化振興課自然史博物館建設準備室係長高橋　哲氏ほか３名
10．13　厚生省施設人材課長古武氏、童福祉監査指導室長神児氏、企画課課長補佐丹羽氏
10．15　工業団地等現地説明会参加者一行
10．23　天皇陛下行幸
10．25　サンパウロ州文化庁長官リカルド・オオタケ氏
10．28　山形県立博物館理事兼教育次長小野　勝氏ほか２名
11．3　台湾大学教授宗　文薫氏、連　照美氏
11．8　第29回全国身体障害者スポーツ大会関係者一行699名
11．10　大阪大学文学部教授都出比呂志氏ほか大学院生・学生23名
11．12　全国教育系大学学長・事務局長一行28名
11．12　徳島県高等学校地歴学会一行
11．13　国際交流基金中学・高校教員一行28名
11．13　台湾大学医学院教授林　憲氏
11．14　中国遼寧省博物館徐　秉琨氏ほか２名
11．20　国立民族学博物館宇野文男氏
11．30　豊橋市自然史博物館学芸員家田健吾氏ほか１名
1．20　国立歴史民俗博物館管理部資料課長西川　晧氏ほか２名
1．21　東京国立博物館次長奥村秀雄氏ほか８名
1．26　高知県立牧野植物園長里見　剛氏ほか３名
2．4　鹿児島県議会環境対策特別委員会一行12名
2．6　大阪市文化財協会一行29名
2．22　那覇市教育委員会文化課主幹金武正紀氏、主事島　弘氏
2．23　福島県立博物館副館長遠藤征一郎氏、主事吉田　登氏
3．3　国立科学博物館主任研究官松原　聰氏
3．11　大阪市立自然史博物館長柴田保彦氏ほか２名
3．11～12　国立科学博物館古生物第三室長上野輝彌氏ほか１名
3．15　一宮市博物館学芸員田中禎子氏
3．18　加世田市教育委員会文化係長伊地知治喜氏ほか２名
3．20　益田市教育委員会生涯学習課文化係長下瀬俊明氏ほか１名
3．29　北海道開拓記念館学芸部情報サービス課長山木雄三氏ほか２名

徳島県立博物館年報 第3号(平成5年度)

平成6年(1994)6月30日　発行
編集・発行：徳島県立博物館
〒770　徳島市八万町向寺山
(文化の森総合公園内)
TEL (0886) 68－3636　FAX (0886) 68－7197
印　　刷：㈱教育出版センター